大学の先にあるコト。受験の前に学ぶコト。

5 泊 6 日の夏季集中講座

仕事の学校

実施報告書

(開催期間) 2007 年 8 月 6 日～8 月 11 日

目次

1. はじめに 4
2. 仕事の学校とは 5
3. 実施要綱 13
4. 運営組織 13
5. 参加者内訳 15
6. ご協力頂いた方々 16
7. 6 日間の流れ 18
8. 参加者の言葉 ⑴ ～わたしにとって、仕事とは何か。わたしは、何のために仕事をするか。 31
9. 参加者の言葉 ⑵ ～今のわたし 49
10. 参加者と保護者へのアンケートから 58
11. 見学者へのアンケートから 62
12. 来年度への課題 67
13. おわりに～スタッフから 71
14. 謝辞 78

仕事の学校実行委員会

連絡先

〒107-0061 東京都港区北青山 3-6-7 青山パラシオタワー11 階 ㈱音別

(TEL) 03-5778-5961

(FAX) 03-5430-0474

(e-mail) info@shigotonogakkou.net

(Web) http://www.shigotonogakkou.net/

1.　はじめに

　数年前から高校生を対象にした宿泊型セミナーに関わってきた。参加した高校生たちは、終了後、目をキラキラさせながら感想を口ぐちにする。「いろいろな人の講演を聞けてよかった！目からウロコの連続でした。家に帰ってから勉強がんばります。」「全国から集まった高校生達と交流でき、視野が広がりました。」 このような感想を聞くたびに、関わって良かったと思う一方で、これでいいのか？という漠然とした疑問も残った。講師が発したキーワードが胸に残り、友達と仲良くなる。これだけでいいのだろうか？　もっと深く学び成長できる機会をつくるにはどうしたいいのだろうか？

　今回、集まった実行委員は、参加する高校生達に「深く学んだ、成長した」という強い実感を味わって欲しいという共通の強い思いがあった。そのためには、講演中心ではなく、体験も交えたプログラムを構成する必要がある。頭だけで理解するのではなく、体で実感したことと、頭で考えたことをしっかり結びつけ、それを言葉で表現するようなプログラムにしなくては、「学ぶ場」としてしっかりと機能しない。そのようなことを課題とし、5 泊 6 日のプログラムを、2 日間の仕事体験、4 つの講演、そして 9 つのワークショップで組み立てた。伝えたいこと、教えたいことは山ほどある。それを直接的に伝えずに、教えずに、参加者本人たちが自ら気づき、学びとる。そのことを大事にしたプログラム構成とした。結果として、参加者が学びとったもの、そしてその成長の大きさは、私たちが予想していた以上のものであった。

　第一回目ということもあり、私たち実行委員も試行錯誤の連続であった。多くの方のご協力なしでは、このように密度の濃い 5 泊 6 日にはならなかったであろう。ここに改めて感謝の意を表したい。本当にありがとうございました。また、参加してくれた高校生・大学生には、貴重な夏休み中の 5 泊 6 日を割いて参加してくれたことに対して感謝したい。ありがとう。

　この報告書から、一人ひとりの参加者の成長の軌跡を読み取って頂ければ幸いである。

2007 年 12 月
仕事の学校実行委員会
委員長　本城慎之介

2.　仕事の学校とは

2.1.　宿泊型のキャリア教育プログラム

「仕事の学校」は、「職業選択」ではなく「仕事観」の育成を重視した宿泊型のキャリア教育プログラムである。5 泊 6 日の会期中に、9 回ワークショップを通じた主催者側からの発問に対し、参加者自らが「話す」ことと「書く」ことを繰り返すと同時に、2 日間の仕事体験（「試す」）を行う。そして、話し、書き、試したことを関係づけるためにも、社会で活躍している 4 名の講師の仕事観を聞く時間も設けている。体験から主体的に学ぶと同時に、参加者が互いに学びあうことを重視したプログラムである。

2.2.　背景

「将来の夢は何？」と、子どもに質問する大人。子どもたちは当然のように、「職業」の名前を答えるし、大人もそれを期待している。「そうか、○○になりたいんだ。じゃあ、○○になるためには、どういう知識や技術が必要かな？　それを身に着けるためにはどうしたらいいのかな？」　こんなやりとりが、キャリア教育という名の下に、全国各地でやりとりされている。夢を職業に結び付け、その職業に就くための知識と技術を習得する方法を調べさせ、進路選択という名の学校選び、会社選びをさせる。いろいろな職業が紹介されている本を手にし、ショッピングのように職業を選ぶ。職業に自分を合わせる、あてはめることを強いるようなキャリア教育。そういったものへの疑問が、この「仕事の学校」の背景となっている。

また、大人に向けても、「好きなことを仕事にしよう」だとか「自分に向いている仕事は？」などのような言葉が、最近目につく。好きだろうが、嫌いだろうが、得意だろうが、不得意だろうが、そんなことは関係なく、私たちは仕事をして生きる。どんな仕事をするにしても、「自分にとって仕事とは何か、何のために仕事をするのか」ということをしっかりと自覚することは、どんな人生を歩むのか、どんな生き方をするのかという哲学を持つことにもつながるのではないか。

2.3.　3 つのねらい

1、仕事観をつくる。正解から回答へ。

「わたしにとって、仕事とは何か。わたしは、何のために仕事をするのか。」

仕事の学校は、この正解のない問いへの、自分自身の回答をつくりだす場所である。私たちスタッフの役割は、「教えない」こと。考えるきっかけとテーマを与え、一人で考える時間、自分のことを話す時間、相手の話を聞く時間、お互いに話し合う時間、自分の考えを書く時間をたっぷり用意し、参加者一人ひとりの回答が出るのをじっくり待つ。

私たちは、教えることにも、教えられることにも慣れている。そして、そのほうが楽であることも知っている。頭で覚えることは、それほど大変なことではなく、むしろ簡単なことである。しかし、頭で覚えたことは、時間が経てばいつかは忘れる。特に、このような宿泊型のセミナーで一方的に与えられた知識は、期間中の興奮状態が冷めれば、あっという間に忘れ去られる。

仕事の学校では、体験し、考え、話し、聞き、話し合い、書くことを何度も繰り返すことで、自分自身の仕事観という回答をつくりだす経験をすることを一番のねらいとした。今回「仕事」というテーマで回答を出した参加者は、おそらく他の「正解のない問い」に対しても、自分なりの回答をつくることができるであろう。

2、人と関わる喜びを伝えたい

会場選びで最も重視したのは、4 人以上の宿泊部屋があることである。共に学び、語り、寝泊りすることで、互いを認め合い、向き合い、人と関わる喜びを伝えたかった。ケータイを使ったメールでのコミュニケーションが増え、最近では、修学旅行もホテルで二人部屋という形態が多くなっていると聞く。一言も話さなくても買い物ができ、誰とも会話せずに一日を終える生活もできる今の社会に生きる高校生に、「人と関わるって、けっこう楽しいんだ。」と実感してほしかった。

それを実現するために、初日の最初のプログラムとして、「チームビルディング」を実施し、参加者の人間関係を築くきっかけをつくった。仕事体験先も一人で行くのではなく、必ずどの仕事体験先も複数人が参加し、経験を共有できるようにした。各ワークショップでも、一人で考えた後に、必ず互いの意見を交換しあう時間を設け、相互に受け入れることを繰り返し行った。そうすることで、49 ページ以降の「9. 参加者の言葉 (2) ～今のわたし」にも、多くの参加者が人との関わりについて書き記しているように、「仲良くなった」というだけではなく、「人と関わる喜び」を実感したようである。

3、世の中をよくしたい

私たちが、「仕事の学校」を開催するにあたって、大きく影響を受けた一冊の本のプロローグには、こんな一文がある。

> *結果としての仕事に働き方の内実が含まれるのなら、「働き方」が変わることによって、世界が変わる可能性もあるのではないか。 この世界は一人一人の小さな「仕事」の累積なのだから、世界が変わる方法はどこか余所ではなく、じつは一人一人の手元にある。 ― 西村佳哲 (2003)『自分の仕事をつくる』 晶文社*

世の中をよくしたい、もっといい社会にしたい。私たちは心の底からそう思っている。西村さんが書いているように、一人ひとりの働き方が変わることで、世界が変わると信じている。働き方が変わる一つの方法が、中高生のうちに仕事観を持つ機会に出会うことであるという思いから、仕事の学校を企画した。そしてそのことは、参加者だけではなく、私たちスタッフをはじめ、何らかの形

で仕事の学校を知った多くの大人たちに、それぞれの「働き方」や「仕事観」を見直すきっかけを提供することでもある。小さな一歩ではあるが、未来につながる力強い一歩でもあると確信している。

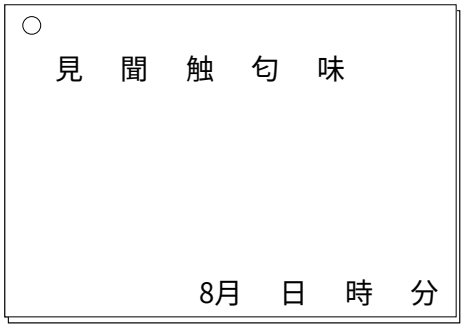
2.4. 仕事体験

仕事の学校では、期間中に 2 回（2 日間）の「仕事体験」を実施した。一般的には「職業体験」と呼ばれるものであるが、「職業を知るためではなく、仕事観を培うため」ということで、仕事体験と呼んでいる。特徴としては以下の 4 点に絞ることができる。

1） 体験先は参加者の希望を取らない。
2） 2 日連続ではない
3） 1 回目は観察中心
4） メモをとる

「職業体験」であれば、興味のある職業を調べ、そういった職場で体験することが大事になるが、「仕事体験」では、仕事観を培うことを大事にしているので、体験先は参加者の希望は取らず、事務局で班や宿泊部屋、男女構成のバランスを考慮し決定する。また、体験後の振り返りを大切にするために、2 回の体験を連続せずに、間に一日空ける。「自分たちが観察、体験したことは何か？」「2 回目は何に注目して観察、体験するか。」などのことを 1 回目終了後に振り返り、2 回目の仕事体験をすることで、見えなかったものを見られるようになるように工夫している。同時に、2 回の仕事体験のうち、1 回目は担当の方の仕事を徹底して見ること（ジョブシャドウ[1]）に重点を置いている。ジョブシャドウでは、『人がしている仕事を見るのではなく、仕事をしている人を見る』（ジュニア・アチーブメントジャパン WEB サイトより引用）ことに重点を置く。必死になって体験するのではなく、仕事をしている人を観察することで、仕事をより立体的に見ることを期待している。

2 回の仕事体験では、参加者は次図のような A5 サイズのカードメモ 40 枚弱持ち、「見た」「聞いた」「触った」「匂った」「味わった」の 5 つに分類しながら、観察したことを体験したことを次々に記録する。



2 回目の仕事体験前には、各班で次表のように、仕事体験先で確認してくることを 3 つのポイン

[1] 「ジョブシャドウ」はジュニア・アチーブメント本部の登録商標です。

トに絞り、観察・体験をする。

2日目の仕事体験に向けて

確認すること	担当者の方からの回答	回答が現われていた場面	どう感じたか

名前　　仕事の学校　　2007年3月8日 19:30-21:30

今回、4 つの班が 2 回目の仕事体験前にまとめた 3 つのポイントは以下の通りである。

1 班
- 何のために仕事をしているのか？それ以外は？
- 仕事をしていて得られる一番大事なことは？それ以外は？
- 僕らの年代の頃に仕事をどう考えていましたか？

2 班
- 世の中のために何かしていることはありますか？
- どのように人と人との関わりを大切にしていますか？
- 自分の思いを形にしていますか？

3 班
- 自分がいなくなってもこの業務は残った人で成り立ちますか？
- 常に挑戦し、向上心を持って仕事をしていますか？
- お金で買えない何かを得ていますか？

4 班
- 働いている目的で、給料とその他の比率は何対何ですか？
- 仕事にやりがいを感じるのはどんな時ですか？
- 仕事に何をもとめていますか？

多くの仕事体験先の担当者の方からは、「1 回目と 2 回目とで、参加者の行動が大きく変わっていた。明らかに 2 回目は意識が高まっていることがわかり、正直驚いた」といったような声があがった。

ただ闇雲に体験させるのではなく、観察･体験したことを、しっかり一度消化させてから、次の観察･体験をさせることは、仕事体験の効果を高めることにつながる。

仕事体験先（五十音順）

(株) サイバーエージェント

インターネット専門広告代理店を中心にしたインターネット総合サービス企業。4 名の参加者が 2 チームに分かれて、企画会議への参加や営業同行などを体験。

(株) 三育社

野外教育を中心に各種教育関連事業を営んでいる。3 名の参加者が、スイミングスクールで小学生や主婦の方向け水泳教室のインストラクター補助を体験。

(株) 日本公文教育研究会

「算数･数学」「英語」「国語」の公文式教室を全国展開している。2 名の参加者が、地域事務局にて資料作成準備、会議への参加、教室訪問などを体験。

(株) 清盛商事

埼玉県を中心に飲食関連事業を営む企業。2 名の参加者が回転寿司店で、接客、調理補助、清掃などを体験。

(株) 丸和運輸機関

サードパーティ･ロジスティクス事業、運輸事業などを営む総合物流企業。4 名の参加者が 2 チームに分かれ、朝礼への参加、仕分け、梱包作業などを体験。

楽天 (株)

インターネットショッピングモール楽天市場の運営を中心にしたインターネット総合サービス企業。2 名の参加者が、企画･営業会議への参加、営業同行を体験。

2.5. ワークシート

参加者は 5 泊 6 日で 23 種類のワークシートに自分自身の回答を書いた。1 つのワークシートを 2 枚、3 枚と書く参加者もいたので、この期間中にかなりの分量を書いたことになる。ワークシートといっても、ほとんどの場合、A4 用紙にタイトルが書かれているだけのものである。そこに箇条書きでも、文章でも、絵でもどんな形式でもいいので、思いつくままに書いていく。最初の頃は、なかなか言葉が出てこなかった参加者も、日が進むにつれて頭の中に浮かんだ言葉をそのまま書くことに慣れたようだ。参加者も「こんなに何かを書いたのは初めて」や「モノを書くことで自分と向き合うことができた」といったような感想を漏らしていた。各自が書いたワークシートは、参加者が「黄色いファイル」と呼んでいるファイルに綴じられたが、どの参加者のファイルも分厚く膨らんでいた。「夏休みが終わってからも、時々、あの黄色いファイルを見直して、やる気を出しています。」という、うれしい声も届いている。

このワークシートは、参加者が自分自身の成長の様子を把握できるだけでなく、当然のことながらスタッフや保護者の方も、期間中に書かれたそれを見ることで、その参加者の回答が深まっていくことを理解するのにも役立っている。参加者もスタッフも、改めて「書くこと」の重要性を再認識した。

2.6. 日記

参加者は、毎晩、日記をつけ、翌朝、担当スタッフに提出した。担当スタッフは、それぞれの日記を読み、コメントをつけ返却する。日記の内容は、

(1) 今日のこころの天気
(2) 今日、印象に残ったこと
(3) 今日、印象に残った言葉
(4) 明日の自分のテーマ・課題
(5) 明日、絶対にやらなきゃいけないこと
(6) スタッフから

の 6 項目となっている。「今日のこころの天気」は、参加者の気持ちの移り変わりが端的に表現されていた。「明日の自分のテーマ・課題」は、参加者が「気になっていること」が表れ、スタッフがそれぞれの様子を把握する手がかりとなった。

2.7.　生活のルール

5 泊 6 日、初対面ばかりの高校生･大学生が共同生活をする。この時に、どのような生活ルールを設ければいいか、準備段階でスタッフでも頭を悩ませた。細かく決めれば、限りなく細部にわたるまでルールを決めることもできたが、参加者が自分たちで判断し行動することを期待し、以下のようなルールにした。

人を不快にさせない。
人に迷惑をかけない。

共に学び生活する仲間
講師の方々
セミナーガーデンのスタッフの方々
近隣住民の皆様
仕事体験先で働いている人
仕事体験先のお客様
参加させてくれたご家族
次にこの施設を使う人
来年の「仕事の学校」に参加する人

いろいろな人のことを想像し、
自分自身が取るべき行動を判断してください。

あなたの想像力が試されます。

会場となったセミナーガーデンは、閑静な住宅街に立地している。参加者の宿泊棟から 1 メートルと離れていないところには、民家が建っている。当然、それぞれの部屋や宿泊棟近辺で騒げば、近隣住民の方への迷惑となる。セミナーガーデンの管理者の方も、一番この事を心配しており、スタッフも、そのようなことがないよう気配りをした。最終的には、1 回たりとも近隣住民の方の迷惑になることもなく、生活上の大きなトラブルもなく 5 泊 6 日を終えることができた。このことは、参加者の想像力と行動力の結果であることは言うまでもない。

3. 実施要綱

主催	仕事の学校実行委員会（http://www.shigotonogakkou.net/）
期日	2007 年 8 月 6 日（月） ～ 8 月 11 日（土）
会場	セミナーガーデン 〒343-0826 埼玉県越谷市東町 2-65-2
参加費	1 万円（現地までの交通費は自己負担）
募集人数	高校 1、2、3 年生に相当する年齢の方、及び大学 1 年生。男女合計 30 名。
応募条件	(1) 出願者本人が強く参加を希望し、保護者も「仕事の学校」の趣旨に賛同している (2) 5 泊 6 日の集団生活ができる自信がある (3) 2 回の「仕事体験」を積極的に取り組む自信がある

4. 運営組織

仕事の学校は、2007 年 4 月、有志により実行委員会が結成され運営にあたった。実行委員の多くは、過去に小中高生向けのセミナーやワークショップの運営に関わった経験があり、運営はもちろんプログラム構成についても、互いの知識と経験を持ち寄り運営にあたった。また、実行委員以外にも、9 名の大学生がボランティアとして準備段階から携わってくれた。

本城慎之介（実行委員長）

株式会社音別 代表取締役

1972 年生まれ。北海道音別町（現 釧路市）出身。1996 年、慶應義塾大学大学院在学中に、三木谷浩史（楽天株式会社代表取締役）と出会い、1997 年に楽天を共に創業。取締役副社長として楽天の基盤をつくる。2005 年 4 月から 2 年間、横浜市立東山田中学校で校長を務める。現在は、これまでの経験を活かし、学校法人の設立に向けて活動中。小学生から経営者までを対象にした、数々のセミナーの講師等を務めている。

宇佐見純平（事務局長）

1980 年生まれ、現 26 歳。北海道帯広市出身。関西学院大学を卒業後、オーストラリアに渡りラグビーのコーチングの資格を取得。同時にニューキャッスル大学大学院にて教育学を専攻し、卒業。帰国後は株式会社音別にて代表である本城慎之介とともに新しい学校設立に向け、日々活動中。趣味：スポーツ、スポーツ観戦、ドライブ

木元伸一（1 班担任）

1960 年生まれ、46 歳。福岡県北九州市出身。慶応義塾大学を卒業後に㈱資生堂に入社。教育部門にて、社員および得意先の教育を長く担当。「人の可能性」を強く信じている。趣味：料理、読書

井上 晶（2 班担任）

1967 年生まれ、39 歳。東京都江東区出身。慶応義塾大学在学中は体育会野球部に所属。東京六大学野球で通算 9 勝も、完投勝利は 0。卒業後、住友信託銀行（株）に入社し、現在に至る。現在は、企業年金などの運用業務の企画セクションに在籍。

平田明子（3 班担任）

兵庫県尼崎市出身。大学卒業後、財団法人キッズプラザ大阪 ワークショップスペース指導員として 2 年間在籍。また、02 年 7 月、（株）くもん人財開発センターに入社。現在は、採用育成部 育成チームで（株）日本公文教育研究会社員の採用・育成に関わる仕事に携わっている。仕事を通じて成長する喜び・感動を多くの人に感じてもらいたい！趣味：星を眺めること。笛を吹くこと。アイルランドを旅すること。

長尾彰（4 班担任）

1975 年生まれ、31 歳。静岡県富士市出身。東京学芸大学を卒業後、組織開発ファシリテーターとして数々のチームビルディングプログラムを手がける。現在は、している株式会社に在籍。

大学生スタッフ（五十音順）

圷恵理（早稲田大学、準備）、岩田量自（都留文科大学、準備）、大越元（早稲田大学、カメラマン）、川村泰裕（早稲田大学、アシスタント）、北谷圭太郎（慶應義塾大学、アシスタント）、高橋更紗（国学院大学、アシスタント）、角田望（東京女子大学、準備）、友廣裕一（早稲田大学、準備）、水川智沙（明治大学、アシスタント）

5.　参加者内訳

最終的に、30 名の定員に対して 17 名の応募があり、すべての応募者の参加が許可された。参加者の内訳は以下の通りである。実際の運営は、17 名を 4 班に分けた。1～3 班は高校生のみ（4 人ないしは 5 人）、4 班は大学生のみ（4 人）で構成した。各班には、社会人スタッフと大学生スタッフがそれぞれ 1 名ずつ関わり、グループワークのファシリテーションや生活面のサポートを行った。

	男性	女性	計
高 1	5	2	7
高 2	3	2	5
高 3	0	1	1
大 1	1	3	4
計	9	8	17

	高校生	大学生	計
北海道	4	0	4
千葉	1	0	1
東京	2	3	5
神奈川	4	0	4
山梨	0	1	1
大阪	1	0	1
鹿児島	1	0	1
計	13	4	17

参加者募集の広報に苦労し、最終的には定員を下回る参加者での開催となった。しかしながら、17 名 4 班の規模は、一人ひとりの参加意識を高め、深くコミットメントさせる意味でも適切であった。全体で 25 名前後、1 班が 4～5 名の規模であれば、今回と同様の密度の濃さが実現できるであろう。一方で、全体の人数を 50 名程度にしても、学びの深さが変わらないプログラム構成や手法も検討する必要もある。

6.　ご協力頂いた方々

協賛企業（五十音順）

（株）音別、カンディハウス（株）、（株）資生堂、している（株）、住友信託銀行（株）、ポラス（株）

仕事体験受け入れ先企業（五十音順）

（株）サイバーエージェント、（株）三育社、（株）日本公文教育研究会、（株）濱盛商事、（株）丸和運輸機関、楽天（株）

協力者（五十音順）

イナアキコ様　書籍の挿し絵、ポスターやリーフレットなどのイラスト製作を中心に活躍中。今回の「仕事の学校」では全イラストを手がけていただきました。
サイト：http://putilabo.cside.com/

上田剛也様　Movable Type によるサイト構築を得意とするＷＥＢディレクター。今回の「仕事の学校」ではサイト構築全般を手がけていただきました。

井上加代子様　埼玉県越谷市で漢方薬局「井上漢方堂」を経営。仕事体験の受け入れ先企業の開拓に、多大なるご協力を頂きました。
サイト：http://www.inokan.jp/

講師陣（プログラム順）

■長原實（ながはらみのる）さん

カンディハウス株式会社　会長
家具職人としてドイツへ渡り、木工とデザインを学んだ経験から 1968 年（株）インテリアセンター（現（株）カンディハウス）を設立。日本有数のメーカーに成長させる。現在同社会長、（社）全国家具工業連合会会長を務め、日本の家具産業発展に尽力。日本インテリアデザイナー協会賞、　国井喜太郎産業工芸賞、北海道新聞文化省などを受賞。
カンディハウス　http://www.condehouse.co.jp/

■宮城香織（みやぎかおり）さん

プロジェクト・コーディネーター
大学卒業後、出版社の営業を経て、ホテルで営業企画／広報／マーケティングの責任者として従事。その間に、出身地沖縄で開催された、2000 年九州・沖縄サミットのアメリカ合衆国政府代表団の受け入れプロジェクトに携わる。2002 年の FIFA ワールドカップ韓国／日本開催時に、FIFA 日本事務所にて、オペレーションマネージャーとして FIFA 公式プロブラムの企画立案、実施、運営に関わる交渉・マネジメントに従事する。2003 年より博報堂にて、地球市民村事務局マネージングオフィサーとして、国・NPO/NGO・企業の協働事業である、愛・地球博「地球市民村」の実現に向け、公募前の企画段階から関わる。2005 年愛・地球博開催期間中は愛知県長久手町に居を移し、現

場で運営統括。

2006 年 3 月、地球市民村から生まれた「私にできることは、なんだろう。」という本を、世に送り出して、3 年に及ぶ業務を終了。2006 年 FIFA コンサルタントとして、再度、FIFA ワールドカップドイツ大会にベルリンでの公式プログラムのマネジメントに関わる。背景となる文化や言語、行動規範が異なる主体の間に立って、交渉をし、思いをかたちにすることを得意とする。現在は、NPO 法人に勤務。

「私にできることは、なんだろう。」（地球市民村編集・アスコム）

■西村佳哲（にしむらよしあき）さん

プランニング・ディレクター、リビングワールド代表

1964 年東京生まれ。つくる／教える／書く、おもにこの三種類の仕事を手がけている。「つくる」は、センソリムやサウンドバム、MID-TOKYO MAPS などを経て、デザイン・プランニングやプロジェクト・マネージメントを。「教える」は多摩美術大学（上野毛）などでプレデザインを。「書く」はおもに働き方研究家として「自分の仕事をつくる」（晶文社）、「Make your cafe」（IDEE/共著）など。全国教育系ワークショップフォーラム実行委員長（2002～04 年）。

リビングワールド http://www.livingworld.net/

■大葉ナナコ（おおばななこ）さん

バースセンス研究所代表

東京都出身。女子美術大学短期大学部生活デザイン科卒業。87 年の初出産時から産前教育や産後の精神保健に関心を持つ。国内外で妊娠・出産の生理やサポート、出産準備教育について学ぶ。テレビの育児番組制作や出版などで出産育児関連の情報コーディネーターを続けながら通信制大学で心理学や社会思想、哲学を単位修得。1997 年より妊娠前から学べる講座を助産師と開講。2003 年、バースセンス研究所を設立。産前産後の女性支援やパートナーシップ支援、心身に優しく豊かな出産を実現するための調査・研究に従事。講座運営、行政民間での講演、執筆、調査研究、商品開発、テレビ番組の出産シーン監修などで活躍中。2003 年度よりバースコーディネーター養成研修を開講し、次世代支援の人材育成中。19 歳から 5 歳までの二男三女の母。

バースコーディネーター／ヘルスカウンセリング学会認定グループカウンセラー／ 2003 年度厚生労働省子ども家庭総合研究事業“親と子のコミュニケーションスキル向上検討会委員” ／2004 年東京都専門指導員研修講師（ベビーマッサージ）／マンスリービクスインストラクター／2006 年東京都青少年問題協議会員

バースセンス研究所 http://www.birth-sense.com/

7.　6 日間の流れ

7.1.　日程表

<table>
<tr><th>曜日</th><th>6 日 (月)</th><th>7 日 (火)</th><th>8 日 (水)</th><th>9 日 (木)</th><th>10 日 (金)</th><th>11 日 (土)</th></tr>
<tr><td>7:00</td><td rowspan="3"></td><td>朝食</td><td>朝食</td><td>朝食</td><td>朝食</td><td>朝食</td></tr>
<tr><td>8:00</td><td>準備</td><td>準備</td><td>準備</td><td>準備</td><td>準備</td></tr>
<tr><td>9:00</td><td rowspan="13">仕事体験</td><td rowspan="3">[講演]
長原實さん</td><td rowspan="13">仕事体験</td><td rowspan="3">⑤何を体験したのか？
仕事体験を振り返って</td><td rowspan="8">⑨夢と仕事と自分と社会</td></tr>
<tr><td>9:30</td></tr>
<tr><td>10:00</td></tr>
<tr><td>10:30</td><td>集合</td><td>休憩</td><td>休憩</td></tr>
<tr><td>11:00</td><td>開校式</td><td rowspan="3">[講演]
宮城香織さん</td><td rowspan="3">[講演]
大葉ナナコさん</td></tr>
<tr><td>11:30</td><td rowspan="2">チーム
ビルディング</td></tr>
<tr><td>12:00</td></tr>
<tr><td>12:30</td><td rowspan="2">昼食</td><td rowspan="2">昼食</td><td rowspan="3">昼食イベント</td><td rowspan="2">昼食</td></tr>
<tr><td>13:00</td></tr>
<tr><td>13:30</td><td rowspan="2">チーム
ビルディング</td><td>休憩</td><td rowspan="2">閉校式</td></tr>
<tr><td>14:00</td><td rowspan="6">[講演＋ワークショップ]
西村佳哲さん</td><td rowspan="3">⑥2050 年のわたしと社会</td></tr>
<tr><td>14:30</td><td>休憩
部屋移動</td><td rowspan="2">解散</td></tr>
<tr><td>15:00</td></tr>
<tr><td>15:30</td><td rowspan="4">①ミネラルウォーターにつながる仕事</td><td rowspan="8"></td><td>休憩</td></tr>
<tr><td>16:00</td><td rowspan="4">⑦わたしにとって
仕事とは何か</td></tr>
<tr><td>16:30</td></tr>
<tr><td>17:00</td><td rowspan="2">移動</td><td rowspan="2">移動</td></tr>
<tr><td>17:30</td><td>休憩</td><td>休憩</td></tr>
<tr><td>18:00</td><td rowspan="2">夕食</td><td rowspan="2">夕食</td><td rowspan="2">夕食</td><td rowspan="2">夕食</td><td rowspan="2">夕食</td></tr>
<tr><td>18:30</td></tr>
<tr><td>19:00</td><td>フリー</td><td>フリー</td><td>フリー</td><td rowspan="3">フリー</td><td>フリー</td></tr>
<tr><td>19:30</td><td>②何のために仕事をするのか？(I)</td><td>③見たこと、聞いたこと、触れたこと、匂ったこと、味わったこと
仕事体験を振り返って</td><td>④なんのために仕事をするのか？(II)</td><td>⑧わたしの変化</td></tr>
<tr><td>21:30</td><td>フリー</td><td>フリー</td><td>フリー</td><td>フリー</td></tr>
<tr><td>24:00</td><td>就寝</td><td>就寝</td><td>就寝</td><td>就寝</td><td>就寝</td></tr>
</table>

7.2.　8 月 6 日（月）　1 日目

10 時 30 分。JR 武蔵野線吉川駅集合。5 泊 6 日分の荷物を抱えた参加者が、緊張と不安の表情で集まる。迎えの車に乗り、会場のセミナーガーデンへ。荷物を置き、資料を受け取り、好きな場所に着席。同乗した人、隣になった人と少しずつ談笑する者、緊張のまま黙っている者、様々。

11 時。開校式。関西から参加した 1 名が、電車に迷うとの連絡が入る。大学生スタッフ 1 名を迎えに出向かせる。到着に時間がかかりそうなので、開校式をスタート。参加者、スタッフが全体で円をつくり、比較的静かな開校式。生活のルール、確認事項の説明後、実行委員長の本城から、会期中に大切にする三つの姿勢「正解より回答」「思考より試行」「成功より成長」、そして「0.9 と 1.1」についての話。

11 時 30 分。チームビルディング。スタッフの長尾のファシリテートにより、お互いの名前を覚え、参加者、スタッフ全体の一体感を醸成するためのアクティビティを実施。声を出し、体を動かすにつれ、少しずつ緊張がほぐれ、笑い声が増える。

12 時 30 分。食堂に移動し昼食。チームビルディングの効果もあり、リラックスした雰囲気。それでもまだやはり、多少の緊張感は残っている。

13 時 30 分。チームビルディングの後半。2 チームに分かれて「ワープ」や「にぎにぎゲーム」。チームごとに作戦を立てながら、相手よりも早くミッションを達成する。少しずつお互いを名前で呼べるようになる。

14 時 30 分。休憩、そして各自の部屋へ荷物を持って移動。4 人部屋での 5 泊 6 日の共同生活のスタート。

15 時 30 分。ワークショップ「ミネラルウォーターにつながる仕事」。A4 用紙にミネラルウォーターに関連する仕事を、自由にリストアップしていく。箇条書きにする者、チャートにする者、各々好きなように書いていく。なかなか書き出せずに悩む参加者も見受けられる。書き終えたら、各班でのディスカッション。それぞれの意見を集約し、配布された模造紙にまとめる。最後に 4 つの班のまとめを貼り出す。以上、終了。しかし、参加者は「え？それで結局のところの答えは何なんですか？」といった戸惑いの表情。まだまだ「正解より回答」に慣れず、「正解」を求め、「正解」がないことに不安を覚える参加者多数。

休憩後、仕事体験先の発表と注意事項の連絡。仕事体験先は、事務局でランダムに割り当てているため、自分の希望とは違う業種の会社だった参加者はがっかりした様子も見せる。バイトすら未体験の参加者にとっては、「仕事体験」といえども不安な様子。体験のポイントの説明を受けるも、その不安は解消しないようだった。

18 時。夕食。チームビルディングや班毎のディスカッションも経験しているだけに、昼食よりだいぶん賑やかに。地方からの参加者には、移動の疲れもあってか、あまり食欲がない子も見受けられる。

19 時 30 分。ワークショップ「何のために仕事をするのか？ (I)」。まずは 1903 年に初飛行したライト兄弟のフライヤー号と、2005 年のエアバス社の最新鋭機 A380 の写真を眺め、100 年の変化を感じ、この 100 年間で、新しく生まれた仕事、なくなった仕事、変わらない仕事を考える。その後、1950 年の仕事、2007 年の仕事、2050 年の仕事について思いつくままにリストアップする。これらを通じて、自分たちが 60 歳前後になる 2050 年の社会は、今よりも大きく変化することを想像する。後半は、両親や家族が「何のために仕事をするのか？」を、各自がワークシートに書きだす。この段階では、生活のため、家族のため、お金のためというような回答が多く見られる。班でのディスカッションをし、多様な視点を学び、翌日の仕事体験に備えた。21 時 30 分、プログラム終了。

7.3.　8 月 7 日（火）　2 日目

1 回目の仕事体験の朝。最も早いチームは、6 時前に起床、急いで朝食、7 時前には出発。満員の通勤電車に 1 時間強乗る。その他のチームも慌ただしく朝の時間を過ごす。仕事体験では、全員おそろいの白いポロシャツを着る。しおりと、仕事体験用のメモを持ち、緊張の面持ちで、スタッフの車に乗りこみ、各仕事体験先へ。

○

見　聞　触　匂　味

8月　日　時　分

（図）仕事体験用メモ（A5 サイズの厚紙を 50 枚ずつ束にしているもの）

9 時 30 分までには各チームから、到着の連絡が届く。その後は、各社の受け入れご担当者様にお任せ。事前に何回も打ち合わせを繰り返したものの、スタッフにも若干の不安は残る。タイミングを見て、各仕事体験先をスタッフが巡回。受け入れご担当者様に挨拶をし、体験の様子を覗き見る。

17 時 30 分頃、疲れを見せながらもいい表情で少しずつ仕事体験先から参加者が帰ってくる。さすがに、都内での仕事体験先チームは、1 時間強の「通勤」のせいか、ぐったり疲れている。夕食を食べならが、お互いの仕事体験を語り合い、「えー」だの「おー」だのの歓声が飛び交う。スタッフも各仕事体験先での活動を聞きとり、ほっと胸を撫で下ろす。

夕食後、1 回目の仕事体験の振り返り。6 つの仕事体験先別にディスカッション。

仕事体験中には、仕事体験用メモも手に持ち、気づいたことをメモした。これをもとに、次の表にまとめる。

	すごい	がっかり	わからない
見たこと			
聞いたこと			
触れたこと			
匂ったこと			
味わったこと			

その上で、仕事体験先毎に、以下のフォーマットで仕事体験をまとめて発表した。

どんなことをしていたか （「してきたか」ではない！）	それはなんのためか？
（例） 大きな声で「いらっしゃいませ」と言っていた。	○○のため→○○のため→○○のため→○○のため　（3～4 段階）

学んだこと

1. （例）ポロシャツをズボンの中に入れるのは、自分の命を守るためだということ
2.
3.

体験をまとめたり、グループでディスカッションしたり、発表することに慣れていない参加者も多く、かなり苦労しながらのまとめとなった。しかしながら、各自が真剣に仕事体験をし、それぞれの視点で「仕事とは何か？」「何のために仕事をするのか？」という問いに取り組んだことが窺えた。21 時 45 分、プログラム終了。

7.4.　8 月 8 日 (水)　3 日目

3 人の講師の講演の日。中学校卒業後、一貫して家具の制作に携わる長原實さん、いくつかの職場で活躍するものの、すべて「異文化交流」という場で仕事を続ける宮城香織さん、自らの仕事は、「つくる／教える／書く」の三種類と説明し、「自分の仕事をつくる」という著書もある西村佳哲さん。参加者は、三人三様の仕事観に触れつつも、三人の中にある共通点を感じ取る。西村さんの講演では、2 時間以上のワークショップも体験。自分自身の考えを話し、書き、フィードバックをもらうという強烈な体験もした。前日に仕事体験をしている分、講師の皆さんの話が、自分の体験と関係づけて聞けたようだった。

夕食後、ワークショップ「なんのために仕事をするのか？(II)」。翌日の仕事体験の準備。各班でディスカッションをし、仕事体験先で必ず確認することを 3 つずつ決める。ディスカッション後に班毎に発表を行ったが、前日の夜の発表とは見違えるくらいに堂々とした発表。おそらく、昼間の西村さんのワークショップの効果。

仕事体験先で必ず確認すること

1 班

1. 何のために仕事をしているのか？それ以外は？
2. 仕事をしていて得られる一番大事なことは？それ以外は？
3. 僕らの年代の頃に仕事をどう考えていましたか？

2 班

1. 世の中のために何かしていることはありますか
2. どのように人と人との関わりを大切にしていますか
3. 自分の思いを形にしていますか？

3 班

1. 自分がいなくなってもこの業務は残った人で成り立ちますか？
2. 常に挑戦し、向上心を持って仕事をしていますか？
3. お金で買えない何かを得ていますか？

4 班

1. 働いている目的で、給料とその他の比率は何対何ですか？
2. 仕事にやりがいを感じるのはどんな時？
3. 仕事に何をもとめるか？

このような「確認すること」を、単なるインタビューで終わらせないために、以下のようなフォーマットで各自がまとめることとした。21 時 45 分、プログラム終了。

2 回目の仕事体験に向けて

	確認すること	担当者の方からの回答	回答が現われていた場面	どう感じたか
1				
2				
3				

7.5.　8 月 9 日 (木)　4 日目

2 回目の仕事体験。慌ただしい朝にも、少し余裕が見られる。1 回目のような不安そうな表情は消え、「今日は何ができるのかな」というような顔つきが多い。仕事体験中、スタッフはただただ黙って待つのみ。この日までのワークシートをスキャンし参加者別に整理したり、参加者の日記にコメントを書いたり、翌日のワークショップの準備をしたりなど、事務作業をこなす。

夕方、それぞれの仕事体験先から、続々といい表情で参加者が帰ってくる。ところが、ある会社に仕事体験した 2 名の女子が、号泣しながら車から降りてきた。一体、何があったのか？嫌なことでもあったのだろうか…。不安に思い、迎えに行ったスタッフに確認したところ、「いや、とても感動して涙が出ているらしい。」とのこと。ほっとひと安心。それほど強烈な体験ができたことを、うらやましく思うと同時に、受け入れ先の方に感謝。

連日、夜のプログラムは 21 時 30 分過ぎまで行っているため、この日の夜は、プログラムを実施せずにフリータイム。会場で、「てんびんの詩」という、仕事をテーマにした映画を上映。フリータイムのはずなのに、ほとんどの参加者がこの映画を見て、ストーリーと 4 日間の体験と重ね合わせているようだった。

仕事の学校終了後、すべての仕事体験先にご挨拶に伺った。多くの仕事体験先で、「1 回目と 2 回目では、仕事を体験する姿勢がまったく違った。真剣さが感じられた。1 回目と 2 回目の間の一日で、いったい何があったんですか？」というような質問を多く受けた。プログラム構成の手ごたえを強く感じたフィードバックであった。

7.6.　8 月 10 日 (金)　5 日目

これまでの体験を徹底的に話し、書き、とにかくアウトプットすることに 1 日を使った。この日のワークショップの進行には、3 日目の講師である西村佳哲さんの進行方法を大いに参考にさせて頂いた。

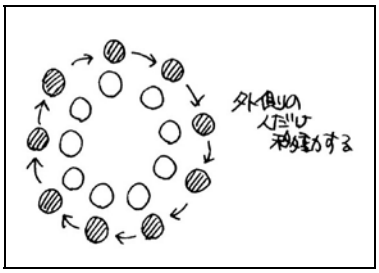
9 時 30 分、まずは 2 回の仕事体験の振り返り。 3 日目に決めた各班 3 つずつの確認事項についてまとめる。最初に、10 分間で一人ずつが整理する。次に、班でのディスカッションを 30 分。班での発表練習を 10 分間、班ごとの発表 5 分、それに対する質問を 5 分。まとめの視点、発表のレベル、質疑応答の質、すべてが初日よりもレベルアップしていることを参加者自身も実感していることがわかる。

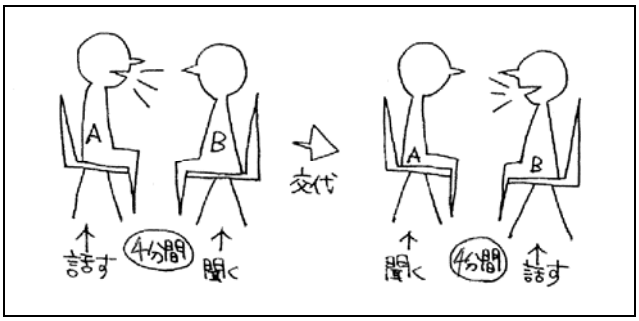
この様子をご覧になっていた大葉ナナコさんに、11 時から講演をして頂く。「幸福を産み出す仕事」というテーマで学ぶ。「オレも子どもを産みたくなった」という男子の感想もあり。

昼食は庭で流し素麺。大学生スタッフ中心に、宿舎の職員の東海林さんの大活躍もあり、見事な流し素麺会場が設営される。すっかり人間関係ができた参加者は、思う存分、夏の一時を過ごした。

13 時 30 分、ワークショップ。「2050 年にどんな自分になっていたいか、どんな社会になっていてほしいか」を 15 分間、ワークシートに書く。その後、5 年後、つまり 2012 年にどんな自分になっていたいか、どんな社会になっていてほしいかを同じようにワークシートに 15 分間書く。「将来のこと」というと、自分のことだけになりがちだが、しっかりと社会のことも考えていくことを大切にしている。また、まず、43 年後という遠い将来を考え、次に 5 年後という近い将来を考えることで、今の延長線上ではない自分の将来を発見することができる。ワークシートに記入後は、以下の形式で互いの「2050 年の自分と社会」「2012 年の自分と社会」についてシェアを行った。

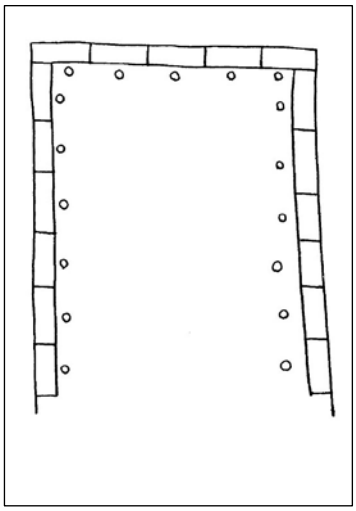
全員で二重の円をつくる。向かい合わせになり、外側の人（A さん）が 4 分間話す。B さんは聞き役。次に、B さんが 4 分間話し、A さんは聞き役。終了したら、外側の人だけが一つ移動し、別な人と同じことを繰り返す。これを 5 回繰り返す。



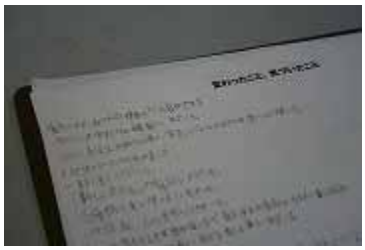


当然のことながら5回、まったく同じ話ができるわけではなく、少しずつそれが変化してくる。何度も将来の自分と社会について話すと同時に、5人分の他人の考える自分と社会について聞くことで、少しずつ将来の自分と社会がより鮮明に見えてくる。終了後は、「こんなに自分の将来、社会の将来を繰り返し話すのは初めて」という感想があちこちで聞こえてきた。

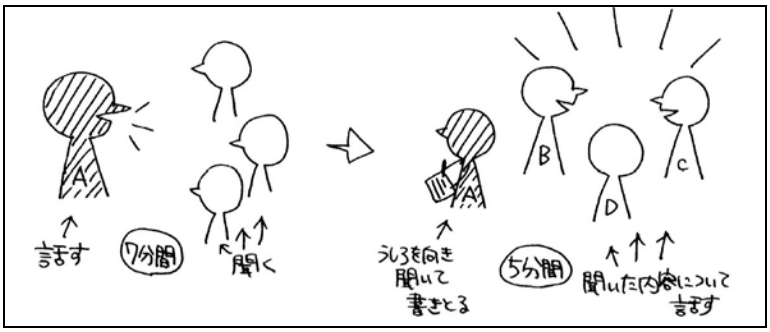
休憩後、いよいよこの仕事の学校のテーマである「わたしにとって仕事とは何か」について取り組む。まずは、5 日間をスライドで振り返り、これまでに記入したワークシートをすべて各自に返却する。返却されたワークシートを、各自が、じっと 20 分間ただ見返す。休憩後、机と椅子を右図のように並び替え、それぞれが壁に向かえるようにし、「あなたにとって、仕事とは何ですか？あなたは、何のために仕事をしますか？」というテーマで A4 のワークシートに自由に書いていく。時間は 90 分間。これまで自分が話したこと、聞いたこと、書いてきたこと、体験したことを振り返りながら、悩みながらも黙々と書いていく。おしゃべりもなく、とにかく静かに時間が進む。集中度が高く、咳をするのも気を使う。希望者は、各班の担任と別室で個別相談。約半数が相談しながら、自分の考えをまとめた。このような形で「わたしにとって仕事とは何か？何のために仕事をするのか？」について書いたものが、31 ページ以降に掲載したものである。90 分間が終わると、「疲れたー」の声と同じくらい、「時間が足りなかった」「まさかこんなに長い時間、自分が何かを書けるとは思わなかった」などの驚きの声があがった。それぞれの表情に充実感がみなぎっていた。



このメンバーで食べる夕食もこの日が最後。気になる女子の近くの席に座ろうと頑張る男子の姿もちらほら。



夕食後は、5 日間の自分自身を振り返るワークショップ「わたしの変化」。いつものように A4 用紙が配布される。まずは 10 分間、「変わったこと、気づいたこと」を書く。次に同じく 10 分間、「変わらなかったこと、わからないこと」を書く。3 日目くらいからだろうか、こうして書いている時間は、おしゃべりはもちろん、周りの様子を気にすることもなく、集中し黙々と紙にペンを走らせている。そして各班で以下の図のように参加者がお互いの書いたことを話し、聞き、フィードバックし、それを書き留める。これは 3 日目の西村さんのワークショップで学んだ手法だ。

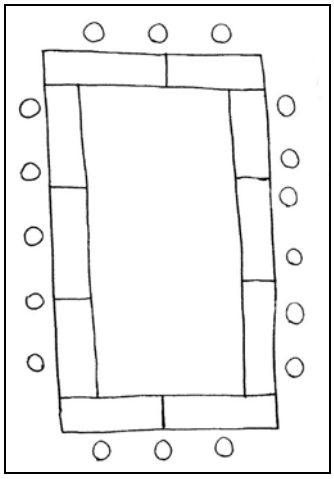


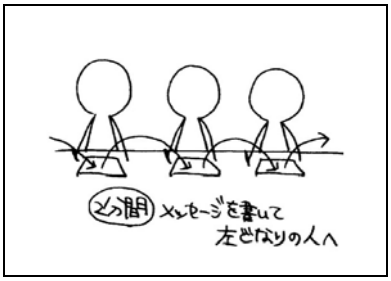
まずは A さんが 7 分間、書いたものを元に「今のわたし」というテーマで話す。他の班のメンバーは黙ってそれを聞く。7 分間一人で話すというのは大人でも結構つらい。7 分間が経過したら、今度は今まで黙って聞いていた他のメンバーが、A さんの話したことについて感想や意見を言う。「A って最初はなんかしらけてなかった？」「3 日目くらいからがんばってたよね。」「いいやつだよ、ほんと。」「仕事の学校終わってからも、がんばってほしいよなあ。」など、5 日間一緒に学んだからこそ、素直な言葉が次々に出てくる。この間、A さんは後ろ向きになり、黙って言われたことをメモする。これを班の人数分繰り返す。今回は 5 人で行ったので、約 1 時間これを行ったことになる。自分のことを素直に話し、それについてフィードバックをもらうという経験は、きっと彼ら彼女らにとって貴重な時間になっただろう。

10 分間の休憩後、机の配置をロの字型にして座る。A3 の白い紙が配られる。初日の頃は、白い紙が配られると「何を書かされるんだろう」と不安そうだった参加者も、この頃になると自分の頭で考えて書くことになれている。今回のテーマは「今のわたし」。時間は 20 分間。その後、これまた 3 日目の西村さんのワークショップの時にやったように、左隣の人に自分の書いたものを渡す。自分の手元には右隣の人が書いた「今のわたし」がある。2 分間の時間で余白にメッセージを書く。これを人数分繰り返す。最後には、自分の手元に自分以外の参加者からのメッセージがたくさん書かれている。これを 5 分間じっと見つめる。微笑みながらも見つめる目は真剣。21 時 30 分終了予定を大幅に延長して 22 時 10 分過ぎ終了。

49 ページ以降に掲載したものが、この日の最後に書いた「今のわたし」である。但し、他のメン

バーからのメッセージは省略している。





7.7.　8 月 11 日 (土)　6 日目

9 時 30 分。いよいよ最終日最後のプログラム。「夢と仕事と自分と社会」をタイトルにした 3 時間。5 泊 6 日を過ごした参加者 17 名が一つの輪をつくり、真ん中にマイクが置かれている。「では、最後のプログラムです。《夢と仕事と自分と社会》について、自由に時間を使ってください。ルールは 3 つ。1 つ目、話す人はマイクを手に持って自分の席で話す。2 つ目、マイクを持っていない人は、とにかく黙って聞く。3 つ目、一人の人が何度話しても良い。では、はじめてください。」 スタッフは後ろで見守る。5 泊 6 日の集大成。参加者を信じて、場と時間を委ねる。しばらく沈黙が流れる。最初にマイクを取るのは、誰でも緊張する。その沈黙が破られると、順々に自分の思いを口にする。17 人が話し終わったところで一度休憩。

10 時 30 分、再開。最初にマイクを手にした参加者が、みんなへ質問を投げかけ、それに一人ずつ答える。それが 2 回繰り返され、それ以降は意見が溢れ出す。その姿を見ながら、5 泊 6 日で彼ら彼女らが学びとったものの大きさと深さを感じる。

12 時。紙が配られ応募時の課題が提示される。

あなたにとっての「夢」「仕事」「自分」「社会」の 4 つの関係を図解

してください。必ず「夢」「仕事」「自分」「社会」の 4 つの言葉を使用し、それ以外の言葉も自由に使用してください。

時間は 30 分間。初日の「ミネラルウォーターにつながる仕事」では、正解を教えてもらえないことに不安を感じていた 17 名も、思い思いの「回答」をしっかりと書き切った。

昼食、そしてスイカ割り。その間にスタッフは卒業証書の用意。各班の担任が、一人ひとりにメッセージを寄せ、それが卒業証書として印刷されている。

いよいよ卒業証書授与式と閉校式。まずはお世話になった施設職員の東海林さんへ感謝状。次に卒業証書授与式。みんなの前で担任から一人ひとりの参加者へ。「読み上げながら泣いちゃうかもなあ」という事前のスタッフの予想は的中。4 人の担任が全員、涙を流しながらの授与。「オレ、卒業式で初めて泣いた。いままで学校の卒業式で泣いたことないのに…」という参加者も。5 泊 6 日の写真を映像化したものを笑顔で見て、集合写真を撮る。閉校。

出発までの時間、メールのアドレスや電話番号の交換、仕事の学校ポロシャツにメッセージを書きあう。5 泊 6 日、毎日快晴、暑かった。唯一の高校 3 年生の参加者の一人が「今のわたし」でこう書いている。「今年は日本中の高 3 の中で唯一この体験をできた自分は他の高 3 よりも一歩リードできてると思う！」と。そして 6 日間が終わった。

8. 参加者の言葉 (1) ～わたしにとって、仕事とは何か。わたしは、何のために仕事をするか。

ここに紹介するのは、参加者それぞれの「あなたにとって、仕事とは何ですか？あなたは、何のために仕事をしますか？」という問いに対する回答である。これを書いた経緯、方法については 27 ページを参照のこと。実際は、A4 の用紙に手書きで自由に書いたものなので、ニュアンスが伝わりきれていない点が多々あることはご了承いただきたい。

Aさん

西村さんの講演では「仕事というものは選ぶのではなくつくるものだ。」という言葉が強く印象に残っている。選ぶのではなくつくる、好きなことを仕事にするのと興味のあることを仕事にする違い。この講演のあと、仕事はお金のためにするものではないのかなぁと思った。

2 回目の仕事体験の日、実際にパートのおばさんや社員の人と働いて、お金の為だけではない！！と思った。働いている時、常に次の作業をやる人のことを考える、担当の多田さんも常に社員・パート・スタッフ・派遣・マツモトキヨシ.etc、たくさんの人のことを考えて仕事をしていた。休むときはしっかり休む、働くときは働く。皆、頭の切り替えが早く、休み時間はお菓子を食べながら話してて、話している時笑っていた。

この後、「てんびんの詩」を見てさらにイメージが変わった。自立しなければ…、と思った。商人はキタナイ心を持っていてはダメだ。商品を愛して、お客様と信頼しあわなければならない。この映画は泣けた。そして多くの事を伝えていた。

今日、大葉さんの講演で、「自分が必要なら、他の人 (10 万人) も必要としているはず！」と言っていた。「不便」は「工夫」の母。私はこんな考え方をしたことがなかった。講演で、みんな見ている視点が私と違うと感じた。

私は、この仕事の学校に参加する前、「何のために仕事をするか」と言われたら、「お金のため」と思っていた。お金がなければ生活が出来ないからだ。だけど、仕事を実際に体験してそれは違うかなぁ…と感じた。

2 日目は説明を聞いているだけで、イメージは変わらなかった。「何のためにはたらいていますか。」と質問していても、皆最初に「生活費のため。」と言っていたからだ。

3 日目の講演を聞いた時にイメージが変わった。まず、長原さんの講演で衝撃を受けた。「お金はあとからついてくる。貧乏ははずかしいことではない。貧乏は宝だ。」「自分は職人だから、どこに行ってもやっていく自信はある。」すごいと思った。自分に自信があるなんて、私とは全然違うと思った。自分は職人になるという強い思いに感動した。私は貧乏やだと思っていたから。次に宮城さん。宮城さんは長原さんとは違ってどんどん仕事を変えた。けど、自分の内に秘めているもの『信念』はどの仕事にも共通していた。「あきらめない」という強い思いに尊敬。

この 5 日間で私が思ったこと。仕事とは人と人を結ぶもの。＝信頼　何のためと言われたら…んー、自分の思いを十分に発揮するため。これが私の答えかな…。もちろん、お金のためってのもありますよ。お金がなかったら、何もできないし。それは長原さんの講演で分かりました。留学して帰るお金がないとか…。「てんびんの詩」でもおかずが食べたかったら鍋ぶたを売れ！って言ってたし。あっ、あと売れた時の喜び。これは苦しい思いをしただけ大きい！改めて感じましたねっ。み

んなで同じ目標に向かって働いて達成したときの喜び、これは丸和で学んだこと。
まず、私は物事を色々な角度から見れるようになれたらいいと思う。利益のためだけに仕事をするような人にはなりたくない。たくさんの人と関われるって良いと思う。だから仕事は楽しいだろうなと感じた。自分が必要としているものが他人も必要なら造ってみたいと思った。

仕事をするとここの共通した思いが分かると思う。これは仕事をしている人だけがわかるものではないか。だから私が今すぐ答えを出せるものではない。

B さん

- 毎日でもやりたいと思える (休みも必要ではあるが)
- いつも何かに興味を持ち、追求したいと思える (現状で満足して終わることはない)
- 自分がやらなきゃ誰がやる！と思える
- 関わる人の反応 (特に喜んでくれること) を楽しみに思える
- 関わる人と喜びや感動をわかちあえる
- 関わる人と仲が良い (昼食を一緒に食べたりできる、お互いの理解が深い etc…) ←楽天の皆さんのような雰囲気がとても良い…
- 任せられるとうれしい
- つらい事があっても辞めない理由となるものが少なからずある

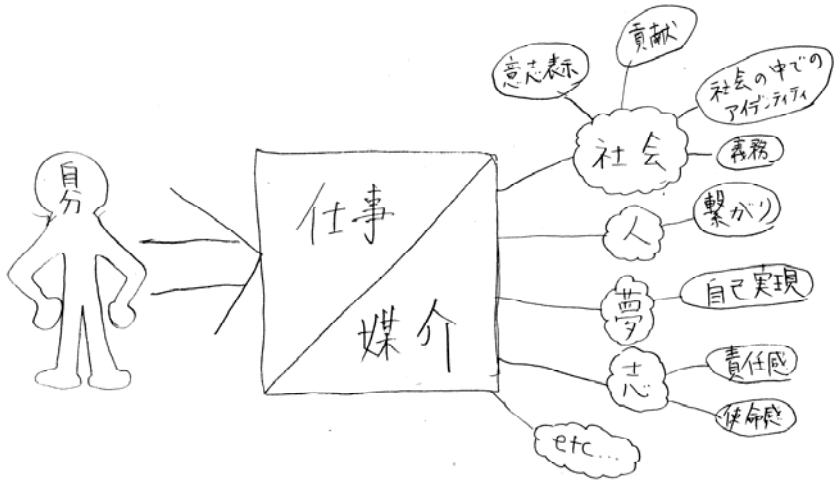
「仕事とは何か？」

- 一生懸命やれる事
- 楽しめる事
- 生活費のため
- 必要とされる事
- 自身や成長につながる事
- 様々な人と出会い、よき人間関係を築き上げる事
- 生きていく上で必要なお金を稼ぐ事

「何のために仕事をするのか？」

- 達成感を得るため(仕事の後、おいしくご飯を食べたり、お酒を飲む etc…)
- やりたい･楽しみたいという欲求を満たすため
- 必要としてくれる人々に報いるため
- 自信をつけたり、成長するため→やれる事の幅が広がる
- 様々な人と出会い、互いに支え･支えられるため

Cさん



仕事とは自分と社会、人、夢、志などを結びつける媒介であると思う。仕事を通じて社会と関わりを持ち社会へ貢献したり意思表示したりできる！人との繋がりも持つことができる。また、夢を叶える、すなわち自己表現も可能だし、志を果たすこともできる。仕事自体が何かという 1 つのはっきりとした形を持つのではなく、仕事とは自分と何かを結びつける媒介だと思う。

・仕事に就いて自分でお金を稼ぐことで親から自立し、親を安心させるため
・社会的に認められるため　社会的責任、義務
・使命感　志
・自分に自ら負担をかけることで責任を全うし、達成感を得て成長するため
・様々な人との出会いのため
・新しい価値観（考え方）を広げるため
・社会を変えるため
・精神的欲求を満たすため
・社会を知るため　現実を知るため
・人と人をつなげるため
・社会への意思表示のため

今仕事をするのだとしたら、生きてけるだけの賃金のために仕事をするのは当たり前だ。こちら側がモノ・サービスを提供するのだからそれなりの対価を受け取るのは当然である。ただ対価というものも上に挙げているようなことの延長線であるべきであると思う。

Dさん

What？

- 社会的にも経済的にも生活していくためには必要不可欠であるが、どんな仕事でも確実に自分の中で経験はつもって、自分を成長させる材料となるもの
- 仕事から得た経験によって、物の見る角度を増やすことができる。又、違う観点(切り口)から物を考えられるようになるので、自分の視野を広げることができるものである
- 形には見えないが、自分の財産となるもの
- 自分が型にはまっていくものではなく、自分の型にはめていくもの、型にはめられなかったら新しく作ったり、形を変形させることもできる。当たり前にあるものだが形が不定形であるもの

Why？

- 生活費
- 生き甲斐
- 自分の存在意義を見出す
- 自分に課された使命
- 周囲の期待に応える
- 自分が自分らしくある
- 自分の精神的成長
- 社会的･経済的自立
- 生活にメリハリをつける
- 家族
- 友人
- 気がねなく趣味の時間を持つ
- 人と出会う
- 新しい自分を発見する
- 他人の考えを学ぶ
- 新たに知識を得る
- 胸を張って生きる
- 自分の力量を量ることができる

Eさん

仕事とは。それは家族を養うため、生きるためにしなければならないこと（必ず）、同時に、やりたいから、夢を実現させるためにやること（必ずではない）だと思った。今、僕は 1 つだけ、具体的になりたい職業があり、漠然と考えているものもある。両方なってみたいと思う職業だ。その 2 つを夢として今勉強している。だれもが自分のやりたいことを仕事としてやりたいと思うはずだ。そして、今回の講座でただ好きなことを仕事にしようと思うのはよくないのも学んだ。

西村さんの考え方で言うと、僕は「やりたい」と「やるべき」のところにいると思う。僕は適当にやる人や、たまたま薬学部に入ったからと言って、薬剤師をやろうと思う人にはやってほしくないと思った。僕のように経験を元にして信念を持つ人がやるべきだと思った。あとは勉強だけだ。

結論：仕事とは自分と周りの人のためにやること

Fさん

＜仕事とは、「仕事とは何か」ということを見つけ出す（考え出す）＞ということだと思いました。

- 自分が持っている夢に少しでも近づいていくため
- 自分自身の存在を認めてもらうため
- 自分自身の価値を追求していくため
- 「仕事とは何か」ということを考えていく（見つける）ため←人間らしく／答えが無限に存在
- 人生の財産をつくるため
- 自分の視野を広げるため
- 達成感を求めるため
- 収入を得るため
- 楽しさを大きなものにするため
- 人生とは何かという答えを探すため
- 新しい自分を発見するため
- 人の役に立つため
- やりたいことをやるため
- 義務のため
- 生きていくため
- お金で買えないものを得るため
- 生きている意味を見つけるため
- 新しい自分に出会うため
- 社会に役立つため
- 自分の力を試すため

仕事とは

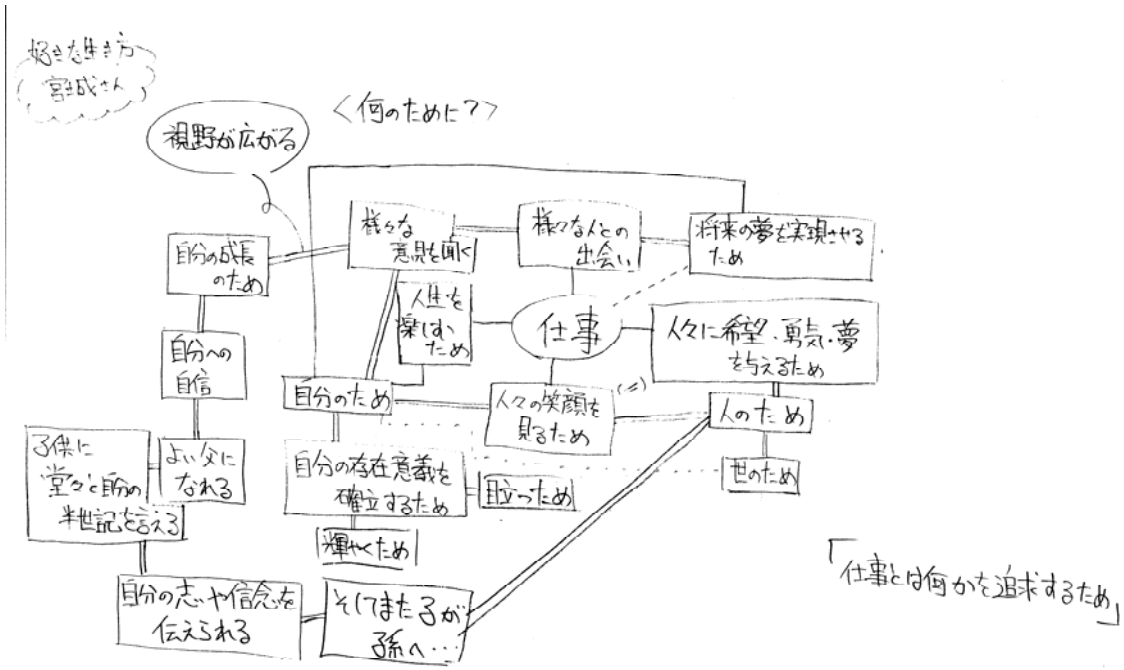
- 「仕事とは何か」ということを見つけだすために仕事をしている
- 人間的な感性を満たすために仕事をする
  ←答えが無限に存在

Gさん

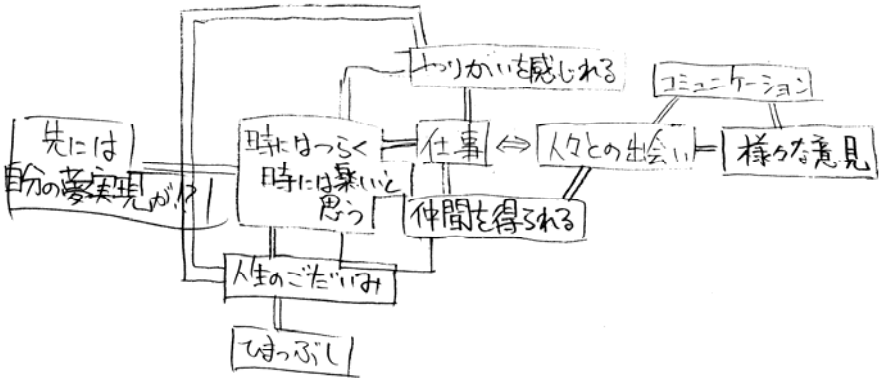
僕にとっての仕事とは、自分の好きな「人とのふれあい」、「コミュニケーション能力」を使った職業につき、人に幸せをもたらすこと。今までもこう思っていた。仕事の学校に来て、いろんな人の話や意見を聞いたりしてて

Hさん

＜何のために？＞「仕事とは何かを追求するため」



＜仕事とはなにか？＞



- **人との出会いの場**
- **人生を送る上でのひまつぶし**
- **人々に希望や夢や勇気を与えられるもの**
- **仲間を得ることができる場所**
- **時にはつらく、時には楽しい**

Iさん

仕事をすると何がもらえる？―財産（技術、財産、人←関係）
仕事は何でする？―自己アピール
誰のためにする？―自分
どっからが仕事でどっからが仕事じゃないのか？―役にたつか役にたたないか
仕事は何であるのか？―必要とする人と、必要とされた人がいるから
仕事は誰が始めた？―人が生まれたときから
仕事が必要としてると、誰が認めている？―自然と、本能が、

仕事は人で、仕事をするということは、人と関わるという事
どんな仕事も自分一人じゃなりたたず、する意味もない
自分にとっての仕事は、人に対する自分の思いと感情の表現の一つだと思う

仕事とは？
人
なぜ人なのか？

自分尾周りに沢山の仕事がある。その中で生活してて、仕事は人に必要とされ、その仕事をするのも、人であって人は、自分という人、お客さんという人、家族という人、友人という人、仲間という人、に対して、信頼、信用、愛情、友情、尊敬、慈愛をもって人のために、するべき、やりたい仕事をする。

少しでも幸福な明日のために、少しでもあの人を楽にさせる明日のために、少しでも認めてもらえる明日のために、人は人のために苦労して汗を流して、悩んで、ケガをして、口論して、主張して、でもその先に自分の仕事を必要としてくれる人がいる。その人たちにとって必要な仕事をすることによって、わたしは、感謝されたいと思い、認められたいと思い、役に立ちたいと思い、存在を認識してほしいと願い、救いたいと思い、仲良くしたいと思う。

なぜわたしは仕事を通して人の社会にここまで過剰に関わろうとするのか。ありきたりな言葉で、人は一人では生きていけないと聞くが、まさにそのとおりだと思う。自分一人だ（解読不能）、社会で存在しない、社会が存在しないという事は自分（解読不能）。人は人と関係を持ちたがるのは、さびしがり屋で自分という一人を認めて存在の確認をして欲しいから。

人に認めてもらうにはまず、自分が人のために役にたって、信頼しなければならない。人は自分の少なさを（？）自己アピールのために働いている。本当は必要とされているのではなくて、必要とされたがっているのかもしれない。人は人であるかぎり、追い続け、世の中と自分の自己満足のための夢と、戦い続けなければならないのかもしれない。人が人を求めるのは自然の理でさからうことのできない本能が一つの大きな方法として求めているのだろう。
あなたにとって、仕事とはなんですか？→自分自身をアピールするアンプ→自分の存在を

あなたは、何のために仕事をしますか？→自分のため→人と関わって、自分の存在を認めてもらうことが自分のため

⇒それをするには仕事をするというアピールの方法が一番簡単⇒人に感謝されたい、人に認めてもらいたい、人に愛されない人を助けたい

なんでアピールをする？→自分の存在の主張、自分個人の満足

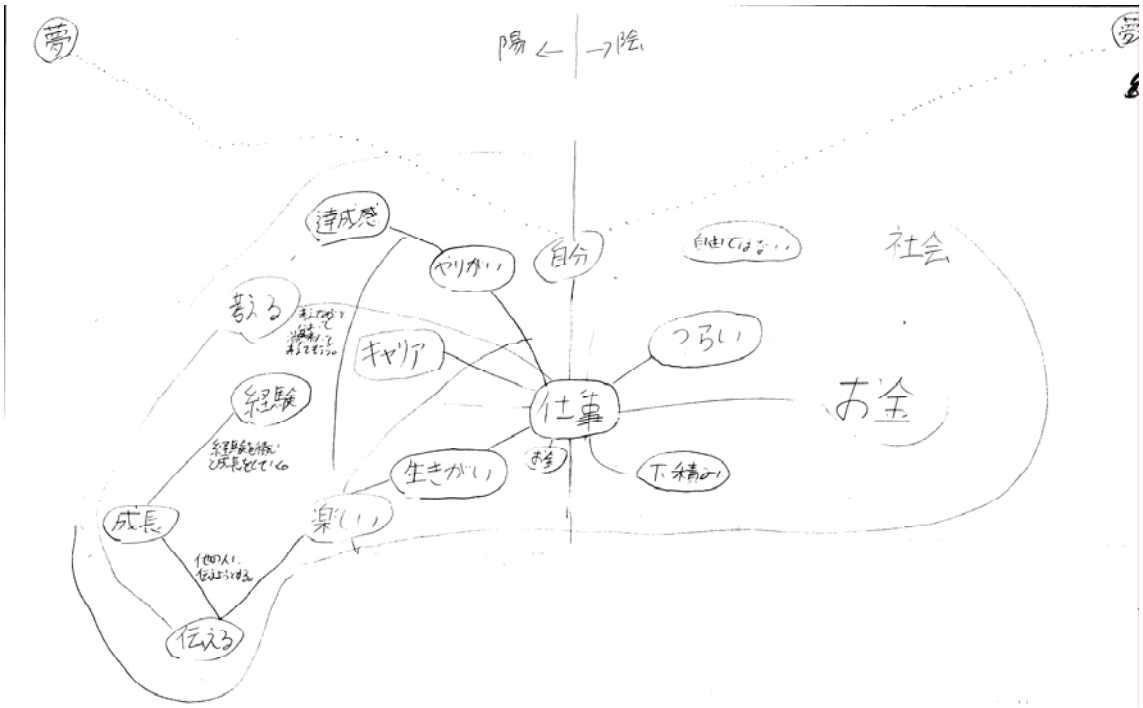
どんな仕事をするとアピールできる？→するべき･できる･したいの図の真ん中にあてはまること

夢＝人との関わり方の理想の形態＝理想の仕事

自分のやりたい仕事がしたい
身近な人を楽にしたい、ほめてほしい、よろこんでほしい、自分を見てほしい

人を思う優しい心
非自発的仕事、仕事にして仕事にあらず

Jさん



仕事にやりがい、生き甲斐を感じれる人は仕事を「つくっている」ということなのかなと感じた。仕事を「選んでる」人は与えられた仕事を「こなしている」だけで、想像も創造もできないからだ。仕事を「つくる」ということは自分から仕事の常識をこわして、自分から意見・提案をし、つくっているということなのかなと思った。

作っていてダメだったのをやり直し、良かったものに更に積み重ねていき、自分の作りたいものを目指し、上に向かっているんだとわかった。

↓

僕にとって、仕事とは「夢を追い求める」ものだと思う。自分から点線がのびて、両方に「夢」がある。なぜ2つかというと、仕事に「つらい」「自由ではない」等の感情をいだいている人にも「夢」を追い求める気持ちは絶対に持っているし、逆に「楽しい」「やりがいがある」という感情をいだいている人にも「夢」を追い求める感情は絶対ある。なぜかというと、人というのは常に右上に夢を持ち続けるものだからだ。だから追ってもたどりつかない、という意味で点線で書いている。人は常に夢を持ち続け、しかもそれは社会の枠にはとらわれないということで、社会でそれ以外をくくった。

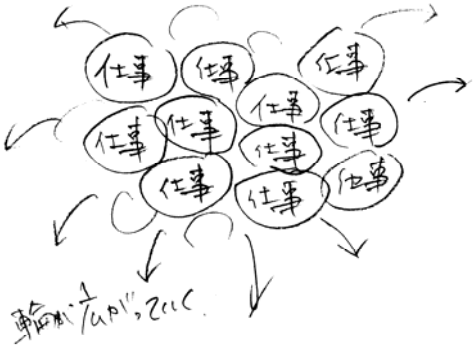
1 枚目に図を使って「あなたは、何のために仕事をするか？」に回答すると、僕は「夢」のために仕事をすると思う。「何のため？」と聞かれると「お金」「キャリア」「経験」「達成感」と答えるかもしれない。つづく…

Kさん

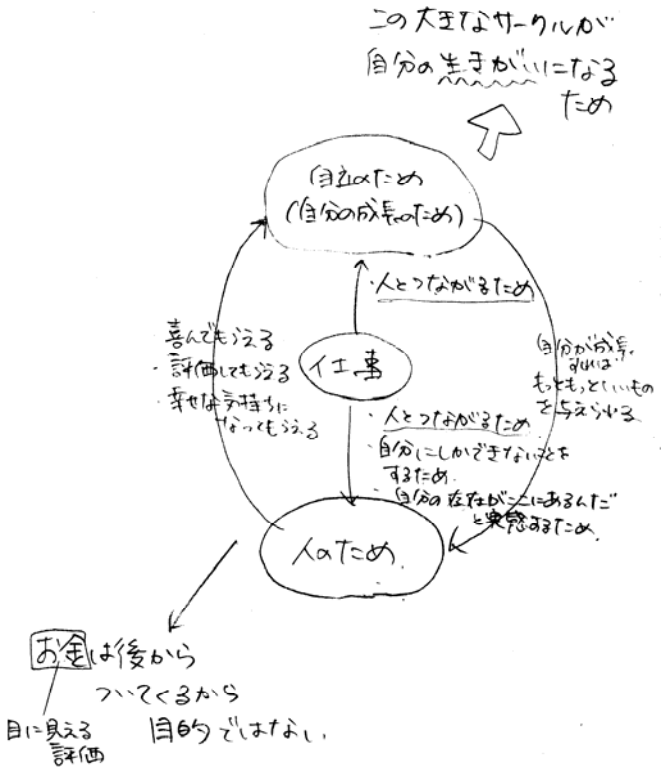
私にとって仕事とは、自分を向上させてくれるものであり、人と人（社会）をつなぐものだと思う。←どの仕事でも言える　ただお金をもらうための手段ではなく、仕事をすることで人は喜びを感じたり、夢を持ったり、仕事に対する価値観を見つけ出せるのだと、仕事体験などを通じて感じた。

私はこの仕事体験をする前、誰かを喜ばせられる仕事は何かを考えて、なりたい職業の中に、「ホテルマン」というのがあった。人と接することが好きで、喜びを与えるのも好きで、だからこの職業を考えた。事務のような仕事や他の仕事に関しては余り考えていなかった。しかし、仕事体験を実際にサイバーエージェントでの経験によって考え方は変わった。

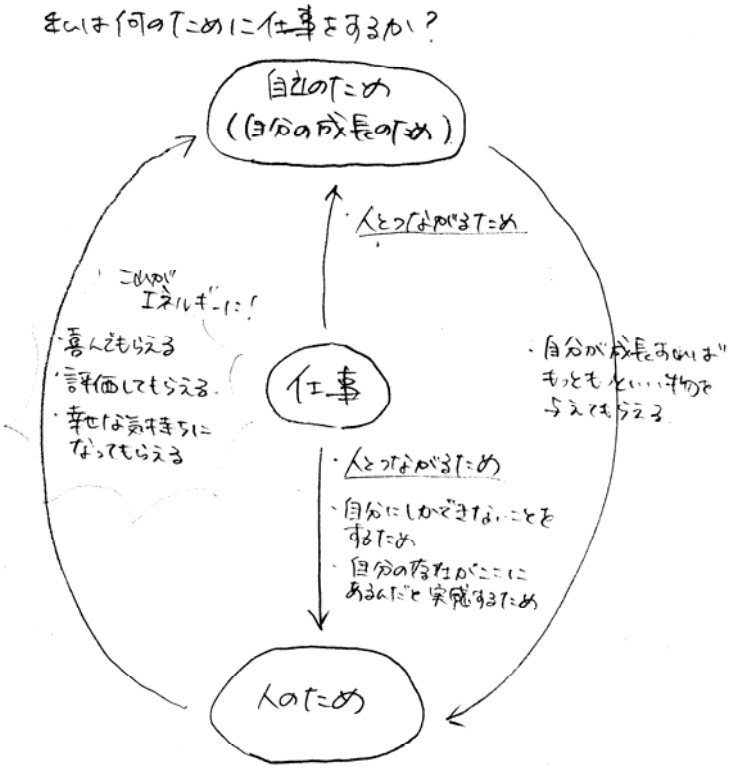
多くの人と働く、人に喜びや幸せを与える→人と人（社会）をつなぐ！あらゆることで　人に評価してもらえる、色んな人と出会う、そうすることで自分はうれしい！→自分の向上



仕事にいいも悪いもなく、どんな仕事であっても、人を喜ばせたり、人と接することができる。それは何でも共通！



あなたは、何のために仕事をしますか？



- **自分自身を成長させるため（自立をするため）→心も体も**
- **多くの人とつながって、大きな輪をつくるため→視野も広がるし、人との出会いで自分の心がステップアップできる！**

- 人のため（幸せを与えたり、便利なものを与えたり）→喜んでもらえたらうれしいし、もっとやる気になる！
- 自分の生きがいを見つけるため→人生が楽しくなる！
- 自分の存在がここにあるんだということを実感するため→積極的に仕事をし、自分の個性を出し、自分から社会の一員になっていく！一生懸命がんばった後認められたら、何よりもうれしいと思う
- 自分にしかできない！ということをするため

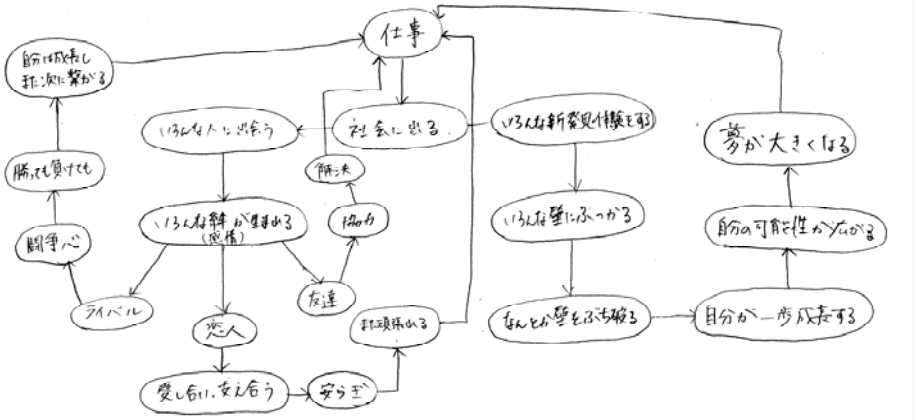
Lさん

仕事の学校に来る前までは仕事はただの金儲けとしか考えていませんでした。だけど今は違います。実際に仕事を体験したり、いろんな人の話を聞くことで、“仕事”とはもっと奥深いことなんだと思うようになりました。仕事をするということは自分と他人と社会に繋いでくれることなんだということが分かりました。もちろんお金が入ってくることも大事だけど、他人と社会に繋がれる方が大事だと思います。

いろんな人と関わることでたくさんの“不可能”を“可能”にすることができる。自分一人では解決できなかったことが他の人の考えや力で解決できたり、一人では抱えきれない問題を他の人に話すことで楽になったり…、様々な場面で他人の手を借ります。逆に自分も他人に手を貸すことができるかもしれません。じぶんがやったことで他人が助かったり、喜んでくれた時は嬉しいです。自信にも繋がり、自分の可能性を広げることになります。それは自分のためにも、他人のためにも、社会のためにもなります。人は一人では絶対生きていけない生き物です。仮に一人で生きていける人がいたとしても、自分は無理です。一人になったときは死ぬときだと思っています。なので他人とのつながりを大切にするためにも一生懸命仕事をしたいです。仕事は自分にたくさんのことを与えてくれています。

他人と繋がるということは社会にも必然的に繋がるのではないかと思います。社会に出ることで初めて自分の存在が認められます。と同時にいろんな感情も生まれます。これらの感情は自分が社会に出た時、必ず必要になってくると思います。様々な感情により人は成長していきます。

仕事とは自分が望み、努力するかぎりずっと就いてくるものです。仕事をすることで人には明日がやって来るんだと思います。



Mさん

この仕事の学校に来る前に思っていた“仕事”というのは、「しなくてはならないもの」「お金を得るための手段」だと思っていました。でも、今は仕事について深く考えてみたり、実際に仕事をされている方の現場の雰囲気や、思いや姿に触れさせて頂いたことで、自分の中の“仕事”に対する考えが変わりました。

私にとっての“仕事”というのは「人とのコミュニケーション」だと思います。人と接することで新たな自分が見えてくる。人の喜んだ姿が自分の達成感につながる。人と関わらない仕事なんてこの世にはまずないと思います。

人とのコミュニケーションを仕事としてみると、必ず自分以外の誰かがいて、自分はその人達のために何ができるんだろうって事も大切になってくるし、人が喜ぶことが仕事につながっていくと思います。エントリーシートには「働く事に何の理由があるのか？」と書きましたが、それは「人の喜び」を「自分の喜び」にしていくって事だと思っています。そして、これは「何のために仕事をしていますか？」にもつながってくると思います。“仕事”だからお金はもらってて、お金をもらっているって事はお客さんがいる。その「お客さんの喜びのため」にするのが仕事だと思います。

これは理想論だととらえる事もできますが、私は仕事体験で実際に感じることができて、仕事をする事は「喜び」だという事が分かりました。

でも全てが全て他の人のためって訳でもなくて、大切なのは、その他の人の喜びが自分の喜びに変わるっていうか、自分が関わる事で人が喜んでくれるっていうのが仕事をするうえでの重要なポイントになってくると思います。

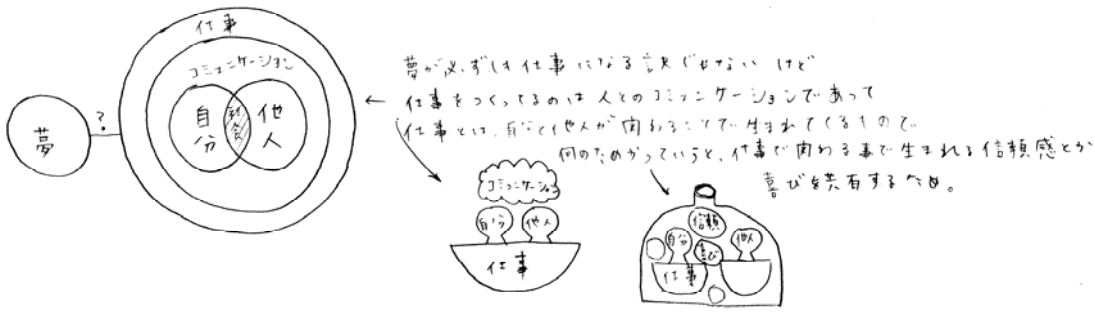
また他の仕事現場は実際に触れていないから分からないけれど、「人と人をつないでいく」というのも仕事だと思いました。物を作るだけが“仕事”じゃないし、お金を得る事だけが“仕事”じゃない。自分一人で突き進んでいってしまうのだけも“仕事”じゃないと思って、それよりもっと他に大切なもの、人の喜びを見つける、自分の喜びを見つける、人と交わって視野を広げていく事が私にとっての仕事になるんじゃないのかなぁと思います。

別にしたくない仕事でも、その仕事に楽しみや喜びを見つけていこうとするのが大切なのであって、できないとか無理だと思っても間違いではないけれど、その 1 回マイナスで思ってしまったことはずっと自分の中に残り続けてしまうと思う。だから、それなら私はいかに「自分のため」になり「人のため」になるかをその仕事の中に見つけていくために、その仕事の当たり前だけれど隠れてしまっているものを見つけるために仕事をしたいと思う。

自分の利益ばかりを考えるんじゃなくて、きちんとお客さんにとっての利益を考えるって言うのも仕事だと思うし、（利益って言うのはお金とかだけじゃなくて）バランスよく、自分と相手を考えられるかっていうのは仕事をするうえで重要になってくると思います。

もちろん、これだけじゃ仕事は続けられないかもしれないけど、私にしてみればこれがないと何のための仕事か分からないです。お金だけじゃない何かが、お金よりも大切なものを得さしてくれるから、そのために私は仕事をしたいと思います。

夢が必ずしも仕事になる訳じゃないけど、仕事をつくってるのは人とのコミュニケーションであって、仕事とは、自分と他人が関わる事で生まれてくるもので、何のためかって言うと、仕事で関わる事で生まれる信頼感とか喜びを共有するため。



何のために仕事をするか

お客さんの喜び

→自分の喜び

→達成感ややる気

→自分のため

→人のため

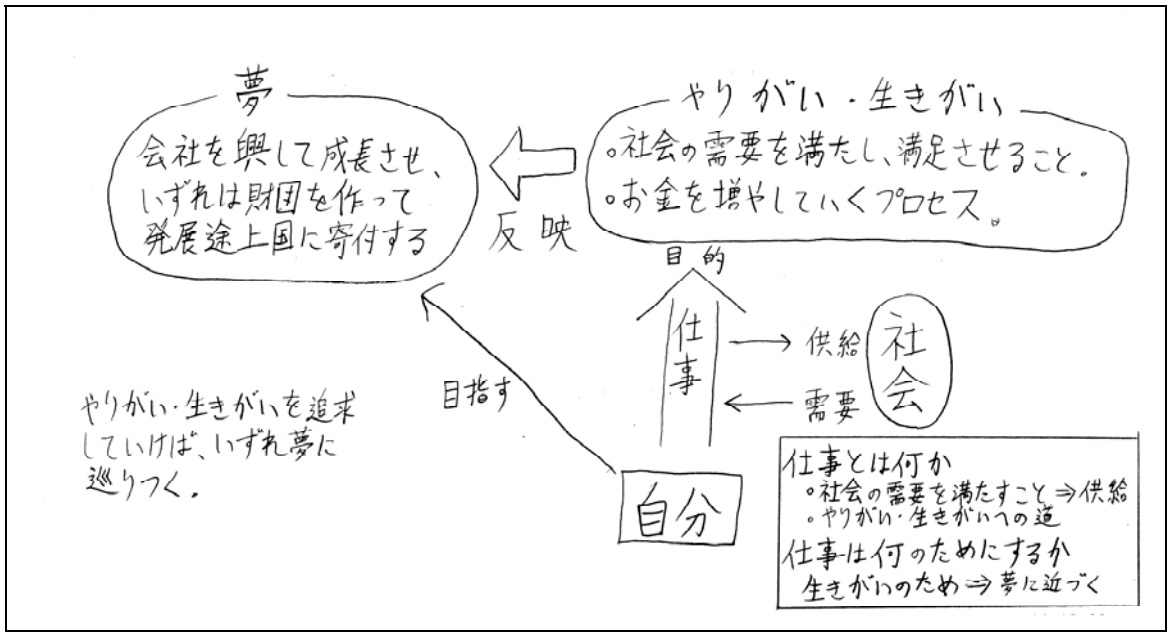
何のためかっていうのは、結局「自分のため」てあって「人のため」である事だってわかりました。仕事は「人」、何のためかは「自分」、「人」のなかにも「自分」のなかにも色々つまってるけど、人と関わっていくことで得られるのは仕事なのかも。

Nさん

僕の夢は、会社を興して成長させ、いずれは財団を作って発展途上国に寄付することです。以前は金を追い求めてたら起業という結論に達したという感じで、金以外も大切だと知っていても、いまいち理解できていませんでした。しかも、財団という考えはあってもそこまで強く考えてはいませんでした。しかし、この仕事の学校に参加したことによって、夢が変わったわけではないけれども、夢に対する考え方が変わりました。どういうことかというと、僕は仕事の学校で、生きがいの大切さが分かり、僕の場合は生きがいが何なのか考えたら、社会の需要を満たし満足させることと、金を増やしていくこと自体だということに気付きました。要するに、金持ちになりたい（大金がほしい）のではなく、金を如何にして増やすか？そのプロセスが生きがいだということです。また、財団という考え方は、社会の需要を満たし満足させるという生きがいからきていることにも気付きました。

よってこれから結論を出すと、僕は生きがいのために仕事をします。つまり、僕にとって、仕事とは生きがいへの道です。これはあくまで「正解」ではなく「解答」ですが、この「解答」をこれからに生かしていきたいです。

仕事とは何か



Oさん

仕事を体験したことで、視点が変わった。仲間と一緒に楽しくやればいいものだと思っていたが、実際は色んなとこから目配りをしなければならないものだと分かった。楽しく仕事はできるが、メリハリをつけて、真剣に取り組まなければならないものとはっきり区切る必要があった。

僕にとって仕事とは、さまざまな人と出会えるチャンスであり、人と人とをつなぐ場である。確かに家族を養うため、お金のためというのは大切だが、やっぱり第一にそれをやりとげた時の達成感。←これが一番大事

仕事とは何か

・仕事とは、人と人を出会わせるチャンスの場です

・人と人とをつなぐ場です

確かに家族を養うため、お金のためにというのも大事だが、一番大事なのは、自分を認めてもらいたいと思うこと。「あの人は良いな」って思わせること。それによって自分がいるんだ！という影響を与えることができ、存在が認められる。そのためには、何事にもあきらめずに常に挑戦し向上心を持ち続けて一生懸命仕事に取り組むこと。使命感を持つこと。それをすることで自然に成長することができる。

あなたにとって、仕事とは何ですか？―人を成長させる場

あなたは、何のために仕事をしますか？―お金で買えない達成感を得るため

仕事とは、人を成長させる場だと思います。人と出会い、つながることで、新たな視点が生まれます。例えば、自分は「～だ」と言ってても、相手が「…もいいんじゃない？」という新たな発見ができます。それが人を成長させる源だと思います。お金や、家族を養うため、というのも働く原因です

が、一人一人が向上心を常に持ってないといけません。でないと人は衰えてしまいます。仕事は「自分がいるんだ！」という存在感をアピールすることから始まります。「あの人は良いな」って思わせれば影響を与えたことになります。「影響を与えた」ということは、自分に存在意義があるということです。存在意義があると、その人は信頼されます。信頼されると人は嬉しくなります。嬉しくなると達成感を得ます。この達成感はお金では得られません。達成感を何度でも感じたいから、一人一人が向上心を常に持ち続けないといけません。お金は、ただ働けば入ります。しかし達成感は「影響を与える」という使命感を持ってないと得られない素晴らしいものだと思います。

Pさん

私にとって仕事とは“人生での一つの挑戦”です。

何かに挑戦する事は簡単なことじゃないけど、挑戦することで自分の可能性を知り、自信がつく。それに、仕事をしなければ得られることができない何か新しいものを発見できるかもしれない。挑戦＝仕事　だから私は仕事とは人生においての挑戦の一つだと考える。

仕事＝達成感のため

将来仕事に就いたら、苦労もあるだろうし、やめたいと思うこともあると思う。でも、仕事をやめたとしても、すぐに仕事をしたい、しないといけないと思うとおもう。それはきっとやめたいと思って仕事をしている中でも目には見えない仕事を通してこそ得られる何かを得ていたからだと思う。そしてその１つは達成感ではないかと思う。

Qさん

1．　私にとっての「仕事」

- 今はまだ、生きる中での指標や目標の一つ
- 将来「仕事」ということに関して自分が、「感心」「もちつづけたい」コト
- (他)人の幸せをつくる。　社会…全体に対して
  家族…家庭あってコソ良い仕事！
- 自分の幸せをつくる。
- 本当にやりたいコト、気になるコト、自分がやるんだ！！と思うコトに関して、　信念もって、つらぬく。

↑

「たとえ、その時の「仕事」は望んだものでなくって、「夢」実現のプロセスの１つでも良い。だが、だからといいて妥協してはきっと「夢」も掴みえないだろう。」

- 自分が●●●●という人間であるコトの１つの要素。
  であるとめに、自分の思うコトを形にするコト。
- 自らが、常にプラスに行こうとする向上心のカタチ。

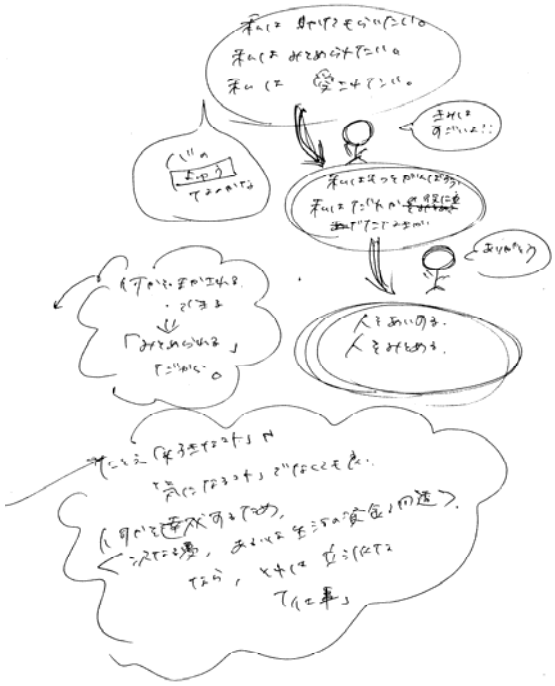
私は何のために仕事をするのか？

- **思いを形にするため。**
- **私が、私として、社会に生きるため。自立するため。**
- **自分のやりたいコト、すべきコト、自信をもって、やりきるため。⇒「仕事をしている」というコトそのものが、自信になると思った。**
- **生活する。「仕事」をすることで、生きるお金を得る。**

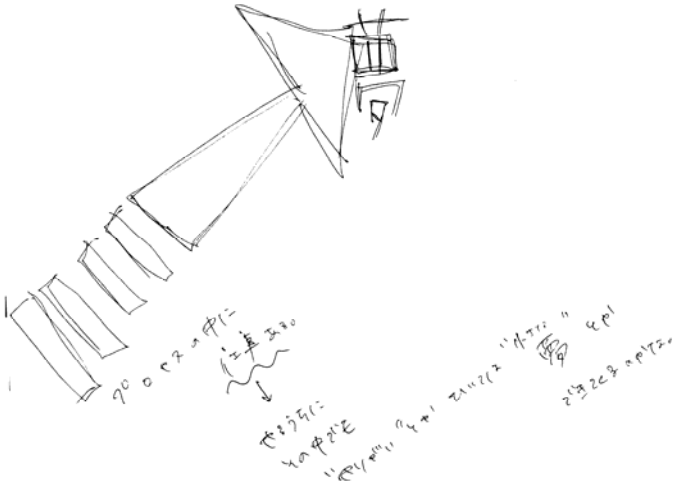
↑

自分の体で頭で得るお金。

- **次なる「夢」(なんでも良いと思う。近い夢でも、遠い夢でも)を実現するため。**



ストレートにいうと、「とりあえず」の仕事でも、タスクをこなすものはみんな「仕事」と思う。だから、子育てとか介護とか、家事とか、「仕事」と思う。



9.　参加者の言葉 ⑵ ～今のわたし

ここに紹介するのは、参加者が「今のわたし」について書いたものである。これを書いた経緯、方法については 28 ページを参照のこと。実際は、A4 の用紙に手書きで自由に書いたものなので、ニュアンスが伝わりきれていない点が多々あることはご了承いただきたい。

Aさん

- 社会人に対するイメージがすごく変わった。
- 仕事は楽しい。
- 今すぐにでも仕事をして働きたい！
- 人にうまく気持ちを伝えられるようになりたい！
- 社会に出て、もっともっと幅広い年齢や環境の人と接したいと強く思っている。
- 色々な人と出会えてよかった。
- 仕事の学校をできればあと 3 日間ぐらいのばしてほしい。せめて 2 日だけでも。
- 来年も参加したい！
- テレビが少し見たいかも。
- 学校でもこういうプロジェクトを行って欲しい。
- 家族に会いたい。
- 家に帰って自分でもっと色々な事を調べたい。(職業についてとか)
- もっともっと講演を聞きたかった。
- サイバーエージェントの人ともっとお話をしたい。
- 今すぐ色々な人に、この仕事の学校で体験したことや発見したことを全て伝えてあげたい。(特に家族に)
- これから受験に向けて勉強に対してもやる気が出てきた。
- スタッフの人達や参加者の人達と明日でお別れなのはすごくさみしい…
- 生徒会にもいかしていきたい。
- 皆で一度、本気でバレーボールをしたいと思った。
- 仕事の学校では思っていた以上に得るものが多かった！
- 仕事体験をもっと沢山してみたい。

B さん

私は、この 5 泊 6 日で中身が大きくはないけど、ほんの小さくだけど、変わりました。

- 「やりがい」って何だろうと考えた。
- 自分はすごく人間が好きだと分かった。
- 周りからうける影響のつよさを知った。
- 「仕事」、自分の本当にしたいことは何か考えたくなった。　　Etc…

ほんとうに私は頑なで、いつも頑なに拒んだり、相手をうけ入れなかったりと後悔の連続でした。でも、今回の学校を通して、そんな自分を少し崩せたように思います。ももたろうでの高

校生との会話とか夢の話、チームでのディスカッション…。私はたくさんの“人間性”をどこかに置き忘れてきたことに気付かされました。みんなありがとう。

今、18 才という時期を向かえて、将来が不安だし何したら良いのか正直分かりません。でも 1 つだけ言えるのは、「失敗しても、七転八起、頑張る」ということ。しりあえて本当によかった。ごーきゅうするかもしれないけど、となりに来て、あした「またねっ！」って言ってもらえたら本当にうれしいです。のうがフル回転で、がつがつこうぎをうけて成長できました！1 人 1 人の夢、応援してます。

今の私は、人生ベクトルの点<●才の夏>です。これから向く方向をしっかり定めていこうと思います。まだまだ、未熟な人間です。

Cさん

- 人見知り。でも自分のことを知ってほしくて頑張る人。
- 人前に立つと頭が真っ白になって何を言ったか覚えてません。
- 表現(コミュニケーション)するのが下手。色々な手段で伝えようとする。その為ウザいとよく言われる。言われるとへコむ。(心が折れやすい)
- テンションが上がると集中力が欠けやすい。
- 無意識に絵を描く。
- 一度決めたことは最後までやりたい。
- ヲタクと言われるが実は守備範囲は狭い。
- 大きな声を出したがる。だから歌うのが好き。でも下手。→練習するよ。
- 男子と何を話していいのか、正直、わからない。でも色んな話を聞きたいから話しかける。
- やりたいことができないとイライラするが、最近、多少ガマンできるようになった気がしなくもない。
- いつまでも若者の心を持っていたい。→主に失敗をおそれない心。
- 失敗するのがこわいから行動にうつすのが遅い。
- 正直、ビビられる理由がわからない。
- 他人の気持ちをいつでも考えられる人間になれるといいな…と思ってる。
- 同年代の人と話せると嬉しい。(年上だと緊張して話せない)
- 楽天のような雰囲気の中で働けると楽しそうだと思ってる。
- 一人で物事を考えるのは苦手だが、グループディスカッションは好き。
- 会話はリズム良くなされないと気持ち悪いから空回りでもしゃべる。

Dさん

未知を拓けば道は開ける　自分と向い合い　人と向い合う　もっと積極的に人と話す　学ぶ

仕事とは何か？普段、考えることのないことを考える機会をもらって実際に働いてみたり、話を聞くことで、今まで見えなかった世界が見えるようになった。

もし、この企画に参加していなかったら、みんなとも出会えなかったと思うと、出会いは不思議なもので、すばらしく貴重なものだと感じた。自分で考えるだけではなく、他人の考えを聞くことでより高次な考えに到達できたのではないかと思う。

今回まだ結論を出すことのできないこともあるけど、これからも考え続けて自分なりの答え(回答)を探し求めたいと思う。

この 5 日間で少しは成長できたのではないかと思う

Eさん

- 講演が予想以上に楽しかったと思っている。
- 英語の宿題をこの一週間分ためていて慌てている。
- 足先が冷えて仕様がない
- そういやメルアド聞いてないや…と思う子が沢山いて、どう切り出そうか考えている。
- 歌いたい
- もう一回サイバーエージェントへ行きたい。
- ちゃんと起きている状態
- 駆け出したい。
- 儲けるよりも楽しい仕事に就きたいと思っている。
- 胃腸は正常に機能している。
- 母親へのメールがめんどうくさくて 1word になっている。
- 参加者で良かったなと思っている。
- 仕事体験満足している。
- 実はアメーバ可愛いと思っている。
- 合宿前に体力が落ちたのでは？と心配している。
- デジカメ持ってきたのに使わなかった…と思っている。
- 仕事体験でやったことが多過ぎて、正直 mixi を更新するのがめんどうくさい。
- そういや 12 日も友達の家に泊まるんだっけ？と思い出し慌てている。
- お風呂に入りたい。
- 腹の底から笑いたい。
- 何を書けばいいのか分かっていない。
- サイバーエージェントの女性社員は皆、美人だったな…と何度も思い返している。
- サイバーエージェントでもらったサイン入りの専門書をどうやって攻略しようか悩んでいる。
- 「天然」と言われ、考えている。
- やっぱ青って好きだなと思っている。
- 味噌田楽をこぼしてシミのできてしまったサイバーエージェントの T シャツを気にしてい

る。

- 書く場所がなくて困っている。
- 書き過ぎたと反省している。

Fさん

今の私は少しホームシックだ。でもここに来る前よりも自信がついたと思う。答えがないことに疑問ももたなくなったし、ものや人を見る角度がかわった気がする。たくさんの人に出会って、自分の意見を言うことは恥ずかしいことだと思っていたけど、今は大切なことだということに気づくことができた。
そして自分と向き合った。考えて考えて自分なりの答えができたとき嬉しかった。自分と向き合って自分のことをよく知ってかわったことは相手を理解すること。相手を理解するというのは相手の意見などにあわせることじゃない。自分の意見と相手の意見を伝え合う、そして相手の意見を尊重することがほんとうの理解だと思った。「自分はこう思う、だからこうする」これを頑固だという人もいるだろうけど、素晴らしいことだ。ここにきてたくさんのことを学べた私は前の私よりも強くなったし幸せだと思う。
そして今の私は未来の私のためにもっと頑張ろうと思った。
生きるためにお金は必要だけど、お金をかせぐことが人生じゃないというのが5泊6日で一番感じたことでした。

Gさん

- 今の気分はかなりハイ
  ここだと夜はいつもそうなんだよね　ﾜﾗ
- 今5分スピーチって言われても出来そう
  ここにきて意見をまとめるのがキライじゃなくなった
- 今何かやってって言われても快く出来そう
  ココに来て、人のために何かをすることを学んだ！！
- 最近めっちゃ体調いい　笑
  規則正しい生活をしてきたからね
- 想像力豊か
  紙に色々書いてそうなったのかな。
- 文を書くのが嫌いじゃない
  この五、六日の成果だね
- 朝早く起きれるようになった
  遅寝早起！？
- 雑談って案外楽しい
  夜のだべり会で培われたのかな。
- 友達って大切！！！
  本当の友達になるには自分の意見をきちんと相手に言えないとダメだよね

Hさん

- 仕事の学校に来る前の自分と、実際に職場体験した今の自分とでは、「仕事の見方」が大きく違ってきているのではないかと思います。
- 仕事の学校に来る前よりも、意見を素直に言えるようになったと思います。
- 今の自分は、周りの意見を聞いて、自分の意見をもてるようになった。
- 仕事に対する考え方もいくつかできて、十分とは言えないが、今の自分に満足している部分もあります。
- 話すことも高校生らしくなってきたと思います。
- 前よりも少し視やが広がったように感じています。
- 自分を冷静に見ることができるようになった。
- 成長したことを自分でも感じとることができました。
- 自分なりの考えを持つことができていると思う。

Iさん

- 人を毛嫌いすることをやめたわたし
- 最後まで、場のふん囲気に染まれなくて後悔しているわたし
- チームの 3 人が、自分のことをしっかり見ててくれて嬉しかったわたし
- 「やればできるじゃん！」と思えたわたし
- 仕事を見る目が 120 °くらい変わったわたし
- 何か得る物があったという実感があるわたし
- 周りのみんなの個性をそれぞれ尊敬するわたし
- 充実感を久しぶりに味わったわたし
- 感情をむき出しにすることで相手を傷つけてしまっていたのが、考えて発言や態度をとるようになったわたし
- 仲間の大切さを改めて感じることができたわたし
- 「みんなちがってみんないいな」と思えるわたし
- こういう紙に書くことをメンドくさがっていたことを後悔しているわたし
- 「自分は、やっぱ中途半端」って思っても、あきらめようとしなくなったわたし
- 意外に直球なわたし
- 場の空気が読めなかったわたし
- 自分たちの成長を長い目で見てくれる先生に感謝するわたし
- 講習中にすい魔におそわれてたのを助けてくれた人に感謝するわたし
- 「未知を拓けば道は開ける」うまいこというなぁと思っているわたし
- こんなときも、いつも集中しているみんなを尊敬するわたし
- 最初は、嫌々だったけど、なんか深いなにかをつかんだ気がするわたし
- なんだかんだで楽しかったわたし
- 祥吾を特に尊敬するわたし
- 「この紙、いずれまわして、なんかコメントされるなぁ～」とうすうす感じているわたし

みんなありがとう
特にチームの 3 人、ズバッとアリガトウ

J さん

～◯幸運◯～
こんなにすばらしい体験をして、こんなにすばらしい友、先生の方々、スタッフのみなさん、猫としょーじさん、竹本さん、センター長さん、パートの清水さん、宮城さん、長原さん、西村さん、大葉さん、たくさんの人とふれ合えて、こんなにも幸運な自分がほこらしく、帰ったら親や友に自慢してやる気持ちです。ポエムでも書けそうな位、自分でも不思議な位、心が純粋で真剣に真っすぐな気持ちで、人に信頼、尊敬、友情を持って接する事ができる今の自分が気持ちよくて、ここちのいいきぶんです。心からあふれた思い出が表じょうの中にあふれでてきそうです。
最近色々考えてた頭がクリアになって、東京の夏の暑さが心地よく、この場にいる仲間の存在は、俺の心の深い最奥の所まで届いてます。
この企画がここまで人を幸せにする企画だと正直最初は思っていませんでした。ですが、今、最後の夜を迎えたこの時、心の底から全ての人に感謝の気持ちを言ったのです。今の気持ちは…参加してよかった。
ただそれだけで別に良いと思います。

K さん

ぶっちゃけ…この仕事の学校には死ぬほど、とまではいかないけど、かなり参加したくなかった。でも参加してみて…本っっっ当に参加して良かったと思っている。こんな素晴らしい企画はない！！って思う程、今は来て良かったと思っている。この企画に参加できた自分はすごく幸せ者だっ！
仕事に対する価値観も大分変わった。プラスの方に考えていけるようになった。仕事体験後は早く社会人になりたいとも思った。
とにかく考えること、書くことの多かった 5 日間。かなり考える能力と書く能力がついた。今ならどんな面接、小論文、ディスカッションにも自信を持って挑める気がする。
皆で意見を言い合うことが楽しくて仕方がない。あと一日でこの仕事の学校が終わっちゃうのが本当に残念。仕事について話し合ったり、皆で意見を言い合うのがこんなに楽しいって思える自分がいる…5 日前にはとてもこんな風には思えなかった。
受験前にすごく良い勉強ができた。普通の勉強よりも大切な事を学べた。今年は日本中の高 3 の中で唯一この体験をできた自分は他の高 3 よりも一歩リードできてると思う！
又、いつかこんな企画があったら絶対参加したい。

L さん

今の私は、この 5 日間を通してだいぶ変化しましたが、1 番何が変化したかっていうと「人とのつながり」の重要さを感じれるようになった事です。仕事の学校で初めて出会った皆さんとのつながりを大切にしたいって心から思えるし、たった 2 日間しか触れ合う事のできなかった公文の事務所

の方々とのつながりも一生残るものだと今の私は思っています。
　後、時間よりも「何をするか」の中身が大事だなって書きながら思いました。仕事と関連づけるなら、「どんな仕事をするか」。この 5 日間で感じた事と同じだなと思います。大切なのは中身であって外側だけじゃないって事。
仕事に対してのイメージも、もちろん変化しました。
　人との関係性っていえば、今までは“競争”とかだけかなーって思ってもちろんそれも大切なことだけど、「コミュニケーションをとる事」それで見えてくることもたくさんあってディスカッションしてても 5 人いれば 5 人違った意見がでてくるし、共通するものもでてくるし。頭で考えるだけでは分からない事がたくさんあって、たくさんの人と共有することで見えてないやーと思っても、この仕事の学校では「それで良いんだ」っていう事が分かったので、このことも前の私と今の私で変化したことです。前だったら絶対「はやく決めなきゃー」と思ってつまって自分の事が見えなくなってしまってたと思うんですけど、仕事の学校に来てみたことによって自分とか周りの見方を変える事、いろんな方向から見てみる事を知ったので絶対少しつまってもたいしょする方法が分かってるのでよかったです。

M さん

・考え方が来る前より新しく、良くなった
・仕事を漠然と考えていない
・自分が深くなった
・ものの見方が変わった
・自分という存在が大きくなったような気がする
・人の話に真剣に耳を傾けるようになった
・色々な仕事が好きになった
・5 日間で学校では学べないものを学んだ自分になった
・仕事というものがとても近く感じるようになった
・西村さんの話に感銘を受けている
・自分の意見というのをよりハッキリ持てた
・来る前よりもっと色々なことを知りたくなった
・いろいろな角度から物を見るようになった
・もっと多くの仕事を体験してみたい
・人とかかわらない仕事はないんだなと思った
・人生の中で仕事の比重が大きくなった
・みなの意見を聞いたけど同じ考え方はいやという気持ちが強まった（個性を出したい
・地元に帰って地域に密着している会社はないのかなと調べてみたくなった
・大きな企業ではどうやって合理的な運営になっているのかを知りたい
・自分が大きくなった

Nさん

僕にとって
・仕事とは何か？
回答：生きがいへの道
・何のために仕事をするのか？
回答：1. 生きがい・やりがいのため
2. 社会の需要を満たし、満足させるため
これらは、「自分」「仕事」「夢」「社会」と深く関わっている。まず、僕の夢は「会社を興して発展させ、いずれは財団を作って発展途上国に寄付すること。」そして、僕の生きがいは「1. 社会の需要を満たし、満足させること。2. お金を増やしていくこと(プロセス)。※金がほしいのではなく、単に増やしていくことが楽しい」

この生きがいの通りに生きていけば、いずれ夢にたどりつく。これが5日間の結論。

僕はこの仕事の学校の前は、「自分」「仕事」「夢」「社会」の関連が分かっていなかったけど、今日やっとその意味や関連性が分かった。

Oさん

今の私は、やっぱり仕事に対するイメージが変わった。仕事はつらくて苦しいものだと思ってたけど、会社にいるメンバーで同じ目標に向かって、目標を達成した時に大きな喜びがあることが分かった。

最初、仕事の学校に行くのがイヤで行きたくなかったけど、今はここに来て良かったと思っている。普段出来ないような体験をたくさんして、コミュニケーションの大切さが分かったと思う。

仕事の学校に来る前と物の見方が変わった
自分に少し自信がついた
たくさんの人と関わって、人と人は信頼で結ばれていると思った
自分じゃなきゃできない！！という仕事に出会いたい。

Pさん

・モチベーション高い
・これからの自分のことが楽しみ
・将来につながる何かを探したい（仕事の学校みたいな）
・この学校で学んだことを早く生かしたい
・勉強する理由が分かったので勉強したい
・視野が広がった、いろんな角度から見えるようになった
・ちょっとだけど自信がついた
・相手を理解しようとする気持ちが深まった
・失敗を恐れない！
・中途半端な人生が直りつつある
・人の3倍努力！

Qさん

・明日みんなと別れるのが嫌な今の私
・歌が大好きな今の私
・自分がなんとなく変わったなと思っている今の私
・西村さんの話をもう一度聴きたいと思っている今の私
・思い切って叫びたい今の私
・子供が超欲しい今の私
・ペンの色が緑が良かったなと思っているのも今の私
・ラストナイトを楽しみにしている今の私
・将来が少し見えてきたと思っている今の私
・遊びたいと思っている今の私
・仕事の学校に思い出のページをいっぱい費やしてよかったと思っている今の私
・みんなと再会したいと思っている今の私
・そろそろ『今の私』がしつこいと感じている今の私
・実際何を書けばいいのか分からない今の私
・夏休み1週間削ってきて良かったと思っている今の私
・早く大人になりたいとウズウズしている今の私
・みんな違ってそれでいい　みんな同じじゃつまらない
・ちょっと詩っぽくてカッコイイと思っている今の私
・ジョニーって変だと再確認した今の私
・・そろそろネタがつきてきた今の私

10. 参加者と保護者へのアンケートから

「仕事の学校」が終わり1週間ほど経ったあと、参加者と参加者の保護者の方にアンケートを実施した。今回の取り組みを経て、何をどのように感じたのかを記録として残しておくと同時に、次回にむけてどこを改善していくのかを知る貴重な意見が並んだ。アンケートに寄せられた参加者と保護者の声を抜粋する。(以下、斜体文字はアンケートからの抜粋)

10.1. 参加者からの声

■5泊6日、繰り返し行われたワークショップとグループワークはどうでしたか？

もっとも多くのコメントを参加者が残したのが、この質問である。「*正解がないということに最初はびっくりしたが、何日か経ったら考えたりするのに慣れていた*」「*これほどよく考え、よくout putすることはなかったのでよい機会となった*」「*あんなに集中し、何かに取り組めたのは初めて*」「*繰り返し行うことで表現する力が身についた*」「*自分で考えて答えを出していくという事が慣れました*」という声が多く、少しずつ「正解より回答」を実践することができたようである。また「*同年代の子と深い話ができたのはとても良い経験になりました*」「*グループのメンバーの意見をたくさん聞くことができて、吸収できるものがたくさんあった*」「*様々な人たちの考えや価値観が知れてよかった*」「*本気で自分の意見を伝え合うという経験はとても貴重でした*」「*一緒に時間を過ごすことによりお互いに理解し合え、意見を出していき、グループで協力し内容を深く追求することができた*」ということから、自分の言葉で話す、そして仲間の話を聞くという機会が経験として培われたようである。このことは、日常生活ではそのような「じっくり話し、じっくり聞く」というコミュニケーションの機会が少なくなっているという事実も読み取れる。「*日に日に自分の考えが変わり、新たな考えを知ることができた*」「*最後には自分で自分自身の変化に気づいたし嬉しかった*」「*最初と最後で取り組みが変わり、自分の成長に気づくことができるものとなった*」「*最近、高校の友達に『変わったね』『強くなった』って言われます。自分では気付いていないけど、成長したんだと思います*」という言葉から、多くの数のワークショップ、グループワークが参加者を成長させたようである。

■長原さん、宮城さん、西村さん、大葉さんの講演はどうでしたか？

「*本当に勉強になりました*」「*すごかった*」という率直な感想が大半を占めた。講演中に講師の方の話のメモを取れるようにあらかじめワークシートを配っていたが、「*講演に聞き入ってしまい、メモを取ることを忘れてしまうことがあった*」「*今までも学校でいろんな人の講演を聞いてきたけれど、比べ物にならないくらい良かったです。学校では寝てしまうのに今回は聞き入っちゃいました*」「*講演の時間がもっと長ければなあと思いました*」「*それぞれの生き方があり、信念があり、すばらしい*」「*僕はあんまり人の話を長々と聞くのは好きではないが、みなさん個性的で、とてもおもしろかった*」「*みなさんそれぞれの価値観や生き方が聞けて良かった*」など、一つ一つの言葉に真剣に耳をかたむけ、聞き入った様子。また「*講演をして下さった四人の方々には、仕事は違えど何らかの共通点があることに気づき、より『仕事』というイメージをしやすくなった*」「*仕事のイメージが変わりました*」「*4人の方のお話は自分なりの答えを見つけ出すのにとても素晴らしいヒントを与えてくれました*」「*今まで自分が触れた事のない世界をお話しして頂いて、新しい見方を知りま*

した」「*人の生き方というのがわかって、勉強になると共に自分に生かせることもあり、ためになった*」といった、それぞれの気付き、発見もあった模様で、こうした方々の講演を聞ける時間、機会というのがとても貴重で、参加者にとってすばらしい経験になるということを改めてコメントから実感した。

■2 日間の「仕事体験」はどうでしたか？

最も多かったのは「*仕事のイメージが変わりました*」という意見。「*仕事体験を通じて『何のために仕事をするのか』という答えをわかることができ、自分の今後の進路にも少し変化がでてきたと思います*」「*実際に働いている方の思いを聞いたり、お手伝いをさせて頂くなかで、『仕事は何か？』という答えを見つけることができました*」など最初は頭で考えていた仕事を実際に目で見て、肌で感じて、「仕事とは何か？」を表面的ではなく、立体的に捉えることができたようである。仕事そのものについても「*仕事に対する関心や興味がより深まり充実したものとなった*」「*仕事に対する責任感、誠実さ、工夫を感じることができました*」といったように、より深く知ることができたようだ。また講演やワークショップ同様に「*普段ではできない経験ができた*」「*自分のこれからに非常に役に立つ体験だった*」といったコメントも多く、インパクトのある 2 日間になった様子。ただ「*2 日間では足りないかも*」「*もっと仕事についての考えを担当者に聞いてみたかった*」など、一方で物足りなさも感じているようで、次回以降に活かしていきたいと考えている。

■社会人スタッフ、大学生スタッフの対応はどうでしたか？

圧倒的に占めたのが「*親切でよかった！*」というコメント。「*メリハリがついていて、とてもあこがれた*」「*相談に乗ってくれてありがたかった*」「*元気をもらいました*」「*しっかり向き合ってもらえてうれしかった*」「「*大人に対する見方が変わりました*」「*初日、緊張気味だった時に積極的に話しかけてくれた*」「*お話を聞いてくれる環境をつくってくれた*」「*グループで話し合っている時は、みんなの意見に指摘をしてくれたり、僕達の意見に上乗せしてくれたりだとか、内容を深めるヒントを出してくれたので、良い話し合いが出来たのだと思います*」などスタッフの対応は概ね好評である。また閉校式のときに準備していた一人ひとり別の文面の卒業証書も「*最高だった！*」と喜んでくれたようである。卒業式後、「小学校、中学校の卒業式では泣かなかったのに、初めて卒業式で泣いちゃった。」と感想を言った参加者もいた。

■「仕事の学校」において、来年はこうしたほうが良いと思うことを書いてください。

ここはたくさんの意見が登場し、次回以降参考になるものが多かった。「*黄色いファイルが大きくてカバンに入らない*」「*洗濯できたらうれしい*」「*女子の食べ物の量を減らした方が良いです。余ったものが捨てられていくのが心痛かったです。作っている人に申し訳ない*」といった生活一般に関することや「*仕事体験先を希望制にしてほしかった*」「*もっとたくさんのところに仕事体験に行きたかった*」「*働く人との直接対話を増やしたほうがよい*」「*社会人スタッフの方々ともっと話す時間がほしい*」「*来年は期間がもう少し長かったらなあ*」という「仕事体験」やプログラム、スケジュ

ールに関することなど多岐に渡る意見は非常に参考になった。参加者が実際に経験して見えたものこそ、次回にむけての新たなステップになるはずなので、これをもとに次回の「仕事の学校」を作っていきたい。

10.2. 保護者からの声

■お子様が「仕事の学校」から帰ってきた後、お子様は「仕事の学校」について、どのようにはなされていましたか？

参加者の帰宅後の第一声の多くは「*参加してよかった*」「*とても充実していた*」という発言が多かった模様。

「*目をキラキラ輝かせながら、様子を報告してくれました*」「*興奮しながら何時間も話してくれました*」「*『毎日たくさん字を書いた。最近こんなに自分から書いたことはない』ということも語っていました*」「*『修学旅行より楽しかった』と言っておりました。『話す』『書く』事に衝撃を受けたようです*」「*『経験したこと、皆さんとの出会い、すべてが感動や気づきの連続で人生の転機になった！参加してよかった！一回り大きくなった！』と興奮しながら何時間も話してくれました*」「*帰宅から数日間、仕事に対する考え方を何度も質問されました。気づきを言葉にする難しさや自分自身の未熟さをどう克服するのかについて語り、意見を求めてきます。誰かと同じではなく、自分自身の考え方が重要だと知ったので、自分を磨きたい。そんな趣旨の話を何度かしています*」「*『こんなにも自分を語り、他人の話を真剣に聞いたことはなかった』と言っております*」「*『今までの人生の中で最高の出会いだった！高校生になって、大人になったつもりでいた自分が、まだちっぽけな若造だということを痛感した』と一週間たっても（帰寮するまで）興奮して話していました*」「*毎日が感動的だったと言っていました*」「*解散の時には悲しくていっぱい泣いたと言っておりました*」「*参加するまでは、不安、緊張、期待感が入り混じっているようでしたが、帰って来た時には、目を輝かせて初めて出会った人々との経験、社会人スタッフ、大学生スタッフの方々が皆さん明るくてとても話しやすかったと申しておりました。あっという間の5泊6日で新しい自分が発見できたと興奮して家族に話をしてくれました*」など、保護者の方々もびっくりするほどの興奮や充実度が感じ取られたようである。

■「仕事の学校」以後、お子様の様子にどのような変化がありましたか？

この質問に対する保護者の方からの返答で、各参加者が家庭において様々な変化を見せたことがわかった。「*何事にも意欲的になった*」「*目を輝かせて話を聞こうとする態度にまず驚きを感じました。まるで新しい回路が開けたように自分について話をしてくれるようになりました*」「*『仕事の学校』で書いたことが自信になり、学校の宿題のレポートも、パソコンを使わず、レポート用紙に手書きで大量のものを何日もかけてこなすことができるようになりました*」「*自分の人生がいかに大切なものであるかを知ったように思います*」「*母親に対しての態度がやわらかくなったような気がします*」「*とてもおだやかに、素直に耳をかたむける様になった*」「*今はインプットしたものを頭の中で繰り返し考え、思い出し、整理しているように感じます*」「*自分の将来の仕事について考えはじめている様子が感じられました*」「*『仕事の学校』に参加し、1人1人の意見や感じ方の違い、人に物事を伝える難しさ、大切さ、自分の存在を得るために努力を惜しまず、自分の生きがいを*

見つける大切さ学び、これからの進路に役立つ貴重な経験をしたと自信を持って話していたことがとても印象的でした」など「仕事の学校」の前後において色々な場面で変化をしているのがわかった。中には実行委員長の本城の言葉にあった「1.1」ということを実践し、生活習慣において「*今までがぶ飲みしていた炭酸やジャンクフードからヘルシーな飲食物へ心がけ、嫌いだったナスやキノコをひと口は食べると言い実践。たまっていた宿題に自分から取り組み、家事も文句を言いながら手伝ってくれるようになりました（果たして 3 日坊主で終わらずに済むかどうか？？？）*」などの変化もあったようである。

■お子様を「仕事の学校」に参加させてみて、来年、同じような企画があれば、弟妹や知り合いの方に参加を勧めてみようと思われますか？

ほぼすべての方から「思います」との返答があった。「*妹を参加させようと思っている*」「*知人に紹介したいので、プレスリリースがあるとうれしい*」など積極的に次回の開催へ関心を示していただけているようである。

■当初は 5 泊 6 日で 4 万 5 千円の参加費でした。5 泊 6 日のセミナーであれば、いくらくらいが妥当な参加費だと思われますか？

「4 万 5 千円は妥当」という答えや「2 万円～3 万円」といった意見などもあったが、地方から参加する人もいるので、やはり参加費は低額で抑えたいところ。次回は協力してくれる企業スポンサーなどを探し、今回同様低額な参加費で開催できるように取り組みたい。

■その他、「仕事の学校」について何かご意見、ご要望、ご感想などあればお書きください。

この最後の質問にはとても長く、そして貴重なコメントが多数並んだ。そのまま掲載させていただきたい。

「未熟な我が子に真剣に意見や熱い思いや本気で取り組む姿を見せて下さった事に心からありがたく感じています」
「ブログで写真入りで様子を伺うことができ、ありがたかったです」
「ともすれば、仕事について真剣に考える時期が就職するために切羽詰った大学の卒業年次になってしまうように思われます。少なくとも高校生時代に仕事について真剣に考えておくこと必要であり、この『仕事の学校』に高校 1 年の時に参加できたことが子供の将来にとって、とても有意義になるものと思っています。」
「最終日、最寄りの駅までむかえに行きましたが、人混みの中改札口を出て来た息子のすがすがしい素直な表情を見た瞬間に本当に良い体験をさせて頂いたのだということがよくわかりました。本当にありがとうございました。」
「このような企画は、子供にとってとても大切なことだと思い、私はこの仕事の学校に『賛同』します」

「本人にとりまして、『仕事の学校』への参加を通して尊敬し、憧れる多くの方々に出逢えましたことが心の糧になったと思います」

このほかにも上記のようなありがたいメッセージをたくさんいただいた。この参加者、保護者へのアンケートで、実行委員会は来年度への意欲を更に高めることができたし、改善点なども多数気づくことができた。「仕事の学校」の次なる成長にむけて、最後まで協力してくれた皆さんに感謝を申し上げたい。

11. 見学者へのアンケートから

開催期間中、18 人の方に「仕事の学校」を見学して頂いた。見学後のアンケートに寄せられた感想・意見を紹介する。

期間中の見学者

日	6 日	7 日	8 日	9 日	10 日	11 日	6 日間
見学者数	2 人	0 人	9 人	0 人	6 人	1 人	18 人

(注) 7 日、9 日目は仕事体験日のため、見学を受け付けていない。

社会人女性 (8 日の見学者)

【感想・意見】
info と意見共有のくり返し、do と think のくり返しがとても良かったです。選ぶではなく創る。「どんな」の追求。自分の中のキーワードがまた増えました。ありがとうございます。自分もそろそろ何かやりまっせ！
【改善点】
参加者数、17 人なんてもったいなかったですよね。こんな素敵なプログラムなのに。

大学生女性 (8 日の見学者)

【感想・意見】
西村さんの講演が興味深かった。“気になることを仕事に”、特に。また後半の WS のプリントはとてもステキなお土産になりました！ありがとうございました。

社会人女性 (8 日の見学者)

【感想・意見】
短時間の参加ですので一般論の感想になります。参加した範囲でのお話しは実体験にもとづくもので、大変興味深く感じました。全体として、仕事体験と講演形成の組み合わせは、非常に有益だと思います。大学でのフィールドワークを含む学習で学生の成長が著しかった経験と重なるものがありました。

社会人女性（8 日の見学者）

【感想・意見】

非常に面白かったです。日本の学生（特に高校生以下）の方々への職業教育において、

⑴ ロールモデルが身近にない

－どのような仕事をどのようにしているかという情報が不足している

－一流の仕事人に触れる機会がない

⑵ 自身のキャリア構築について考える／他人と意見交換する機会がない

という問題があるのではないかと思っておりますが、それを払拭するプログラムになっていると思いました。

・ 西村さんのセッションから参加させて頂いたのですが、非常にクオリティの高いコンテンツに感銘しました。 30 歳のビジネスパーソン相手に話してもいような内容を、わかりやすく真摯に話されている姿も印象的でした。若いうちにこのような話をライブで聴くことができ、仕事観に触れることができるのは、目先の進路決定に役に立つという以上に、生涯に亘る仕事観形成に大きな影響を与えるだろうと思いました。（個人的には、このセッションだけでも数万円払う価値があると思いました。自分が高校生のときに聞けたら、と思うと、羨ましいです）

・ 7 分間（10 分間）、自分のなりたい像を話す、というのは、キャリアセッションとして大変有効と思いました。

・ 3 日目だったということもあると思いますが、和やかかつ談論風発という雰囲気ができているのが印象的でした。もともと参加者の方々の意識も高いのだと思いますが、スタッフの方々が場の雰囲気づくりに努めておられたことが大きいのだろうと 思いました。

【改善点】

いずれも、敢えて言えば、という感じなのですが・・・

・ スピーカーの方が 4 名いらっしゃいましたが、もう少しビジネス寄りの方がいらっしゃってもいいのではないかと思いました。参加させて頂いた際のグループワークで、参加されていた学生が、俳優志望、普通のサラリーマンは嫌、とおっしゃっておられるのが断片的に聞こえたのですが、学生から「普通のサラリーマン」の理解が十把ひとからげにされているのは、不幸なことではないかと思うためです。会社を使って自分のやりたいことをやっている一流のビジネスパーソンを、学生が見るような機会があればいいなと・・・。自分を含め、高校生くらいのときには、メディアに取り上げられるような職種、たとえば音楽関連や起業家という職種に目が行きがちだと思うのですが、もしもその頃に、たとえばマイクロファイナンスで世界平和に貢献しているような人を見て（会社員ではないですが）、大学で金融を学ぼう！ とか思うのもいいのではないかと思った次第です。また、楽天やサイバーエージェントで仕事体験されると拝見しましたので、そうした会社の現役ビジネスパーソンの話をセッションでも聞けたら、仕事見学の

際の理解や興味も深まるのではないかとも思いました。(仕事の本質を考える ということと、実際の仕事の現場を見るということの間に、仕事経験がない方の場合、乖離を感じてしまわないかな、と少し思ったためです)

- 非常に良いコンテンツなので、もっと告知をされたらよかったのでは、と思いました。
- 見学者である我々も、参加者の書いていらっしゃる文章を覗いたり、ディスカッションを聞いたりできたのは非常に有難かったのですが、参加者の方々からすると、お邪魔ではなかったのだろうか？？ とちょっと気になりました。
- オペレーション面においては、改善が必要ではないかと感じた点は特になかったです。

社会人女性 (8 日の見学者)

【感想・意見】
とても勉強になりました！！ありがとうございます。好きと仕事をするのって、ずっと違和感があったのですけど、今日の話きいて理由がわかりました。イラついたり凹んだり悔しがったりたくさんしていたので。

社会人女性 (8 日の見学者)

【感想・意見】
自分自身もワークショップに参加出来て、自分自身を見つめ直し、客観的に考えられる、とても充実した時間をすごすことが出来ました。考えて、それを書き出す作業は、自分の中でモヤモヤしていたものを整理出来る、とても効果大の作業だと感じました。スタートラインに立てた、といった感じです。ありがとうございました。＆スタッフの皆様、本当にお疲れ様です。

社会人男性 (8 日の見学者)

【感想・意見】
自分が高校生だったら、どんなことを考えるかなあ、と思いました。やっぱり上手く想像できませんが、意外とあんまり変わっていない気もします。自分自身にとっても、すごく良い機会になりました。感謝！！走り続け、考え続けることが大事ですよね。
「自分を知る(学ぶ)こと」「社会を知る(学ぶ)こと」
(日本⇔世界という平面で、過去・現在・未来という時間軸で)これをバランスよく学びながら、後は失敗を恐れず、チャレンジしよう！！と思える学校になって下さい！！

社会人女性、仕事体験受け入れ先 (10 日の見学者)

【感想・意見】
参加されている学生さんのすべてが、「自分から」の気持ちを持ってプログラムに臨んでいることが、後ろから拝見していてよく分かりました。1 つ 1 つの課題を「自分のもの」と捉え、精一杯向き合っている様子は感動さえ覚えます。同時に、学生さん方の今後の可能性を

深く感じることができました。自分を飾るわけでもなく偽ることもなく、本音をことばにできること、意見がとびかうこの場は本当に素晴らしいと思います。素晴らしい企画だと思います。学生さんの受け入れ、という形でこの企画に関われたことを心から嬉しく思います。ありがとうございました。

社会人男性、仕事体験受け入れ先（10 日の見学者）

【感想・意見】
2 日間の職場体験の受け入れ、本日の少しのあいだの見学だけでしたが、画期的な学びの機会であり、善なる人の本質を引き出すプログラムだと感じました。職場体験の受け入れという立場でしたが、こちらも大いに学ぶことができ、感動することができました。この機会に感謝しています。ありがとうございました。

社会人男性（10 日の見学者）

【感想・意見】
・ワーク形式のグループ単位での活動、素晴らしいと思います。
・ジョブシャドウを含めた、職場体験を 2 日間実施できる。
・ゲスト講師(大葉さん)の話もわかりやすく良かったです。
【改善点】
・規模(参加人数がもっと集まるとうれしいですね。来年は協力できれば…)参加者の意識、経験の差をどうカバーしていくのか。高校生チームと大学生チームではファシリテーターの指示でカバーしていましたが、チームを mix するなど工夫が必要でしょうか。2，3 時間しか見ていないので判断できませんが…。

社会人男性（10 日の見学者）

【感想・意見】
残念ながら、短い参加(見学)となってしまい、とても悲しんでおります。一見しただけでも、意味のある内容であることが感じられます。この企画が実現したことは「人とのかかわり」を考える人達にとっては理想であり、この企画を発見して参加した方々は、本当にラッキーだとも言えるのではないでしょうか。おもわず「自分が彼らに伝えるとしたら何か？」を考えたり、「ああ、そのためには自分はもっとがんばらなくては」と思ったり、でした。

高校生女性（8 日、10 日の見学者）

【感想・意見】
仕事の学校そのものの雰囲気がとてもよくて、びっくりしました。しっかり見ていた訳ではないのでよくわかりませんが、「にぎにぎゲーム」などで人と触れ合い、コミュニケーションをあらかじめとることは、心と心の距離も縮まるとてもいい方法だなあと思いました。講演会も職種や年齢などにとらわれずに幅広い場で活躍している人たちで、なおかつ、なかなか直接お話を聞くことができない方々だったので、こういった場がもうけられていいと思いま

す。「仕事」というこれから誰もが経験する大切なことを、普通の学校と違った視点でとらえ、参加者たちに仕事というものを自分なりに模索させる。自由になったが為に選択の難しい仕事を知るのには最高の場所だと思いました。

社会人女性（10 日の見学者）

【感想・意見】
娘（8 日に見学した高校生）が「とっても面白かったんだよ」と、水曜日に帰ってきました。本日は「親の仕事」についてということだったので、一緒に参加してみました。出産(自分の)を思い出しました。娘によって新しい世界が開かれるのも親としてとても嬉しく、楽しいことです。子の成長を楽しむというのが親の特権でしょうか。

社会人男性（11 日の見学者）

【感想・意見】
話しの内容から充実度がうかがえました。みな活発に意見を述べて、集中して聞いている様子が印象的でした。みんなの話を聞きながら、自分のことについても改めて考えさせられました。自主的なディスカッションの様子が面白かったです。

12. 来年度への課題

12.1. 事前準備

「仕事の学校」は昨年 10 月からおよそ 10 数回の打ち合わせを社会人スタッフ、大学生スタッフと重ねながら築き上げていった。大きくは下記の 3 つのパートに分かれる。 社会人スタッフは各企業での仕事を抱えているため、月に 1 度のミーティングや事前 2 日間に渡るミーティングなどを時間、空間的な制約がある中での事前準備であった。しかし、メーリングリストでのやり取り、情報交換から分かるように、スタッフの想いや「仕事の学校」のスタンス理解にかける情熱などがそれを大きくカバーし、結果としては数少ないメンバー、機会でも十分に中身を掘り下げることができた。次回以降も担任となる社会人スタッフとのプログラム作りをしっかり話し合い、期間中に学生スタッフの力を借りるスタイルに磨きをかけていきたい。

12.2. 募集

事前の参加者募集に関しては、非常に困難を極めた。募集活動は思ったようには進まず、開催自体を危惧する時期もあった。次回以降は募集に関する意識、やり方、告知の開始時期などを改善し、多くの方の協力を得ることが大切である。また「親、先生から勧められた」という参加者が多いことから、次回以降はさらにこの点に焦点をあてた告知活動を進めたい。

12.3. 仕事体験

仕事体験の受け入れ先は実行委員会がひとつひとつの事業所や担当者を回り、承諾を得る形で決まっていった。しかし、事前に例がなかったため、仕事体験の全容をうまく説明することができなかったり、担当者に趣旨のすべて伝えきることができなかったり、その上担当者の方に多くの迷いや混乱を与えてしまったかもしれないという反省が数多く残ってしまった。今回の経験を経て仕事体験のガイドラインができたので、次回からは体験先への依頼も明解になるだろうと考えている。

一方参加者たちは「仕事体験」から色々な学びを得たようだ。仕事の一面を観察し、その雰囲気に触れることで「楽しい」「イメージが変わった」などのコメントが多く残った。中には自分で実際に仕事をしたがあまりうまくいかず、逆にそのことが社員の方のプロ意識を見る大きなきっかけになった参加者もいたようである。また「知らないことばかりだった」「がっかりすることも中にはあった」など普段経験できない気付き、学びも多く、机上だけではない仕事をいろいろな面から捉えることができたようだ。また 2 回目の「仕事体験」の最後に参加者からの質問に丁寧に答えてくれる担当者の方、「命の大切さ」「安心や安全の重要性」「準備することの意味」など貴重なメッセージを伝えていただいた事業所の方々も多く、次回の仕事体験での依頼ではぜひそういったことをお願いしようと考えている。

「仕事体験」の場所は今回大きく 2 エリアに分かれた。六本木・渋谷といった東京の遠方エリアと越谷・吉川といった埼玉県内の近郊エリアで、移動時間にかなりのギャップが出てしまった。特に東京エリアの仕事体験に参加したメンバーは朝も早く、長時間の満員電車でかなり大変だった様

子。初日で慣れていなかったこともあり、帰りの電車でも疲れのあまり寝てしまうなど、猛暑の中での長時間の移動は次回以降再考する必要ある。ただ、2 回目の体験時には体力的にはきついが、今日で最後という気持ちが強く見られ、移動時、体験時ともに元気に頑張っていたようである。

「仕事体験」の回数については今回火曜日、木曜日の 2 回ということで実施したが、やはり 2 回あると比較できるチャンスがあったり、忙しい時間、余裕があるときの時間の違いの変化に気づけたりと、参加者にとってはプラスになったことが多かったようだ。また当初は火曜日、金曜日が「仕事体験」の予定だったが、結果として、火曜日、木曜日になり、木曜日の仕事体験を金曜日に振り返り、しっかり落とし込む時間があったことはよかった。もしその時間がなければ、参加者はただ興奮したまま帰っていたかもしれない。しかし一方で、1 日終日の「仕事体験」というのは高校生にとっても、担当者にとっても簡単なものではなく、1 日目の半分を観察のトレーニングにあてるなど、多少の変化や長さについては再考の必要があるかもしれない。

また、あるチームは午前中の時間を利用して観察のトレーニングを行った。2 つの喫茶店で店員さんを観察したのだが、様々な発見、学びがあり、非常にいいトレーニングになったようだ。その後の昼食時のレストランでは、黙っていても観察するようになり、仕事というのが他人事ではなく、自分の事として変化するきっかけになった。また別のチームは駅から会社に着くまでに「どれだけの仕事があるのかカウントする」といったことにチャレンジしたようだ。これは机の上だけじゃなく、様々なところから学ぶ、書くという意識にもつながるようであった。こういった「仕事体験」にむけたトレーニング方法を次回ももっと改良した形で取り入れたいと思う。

12.4. 大学生スタッフ

「仕事の学校」には合計 6 名の大学生が関わってくれた。まず事前に関わってくれたのが友廣裕一君（早稲田大学 4 年）。WEB サイトにある「仕事インタビュー」を担当し、インタビュー及びその原稿作りに積極的に取り組んでくれた。彼自身は「仕事の学校」期間には大学の授業の関係で参加することはできなかったが、知人である大越元君（早稲田大学4年）を紹介してくれた。大学生スタッフは社会人スタッフと事前に 2 日間に亘るミーティングを行い、そこで意識の共有や今回の目的の理解などを深めることができた。またそのミーティングはこれから長く時間を共有するチームの「チームビルディング」の要素で非常に有効であった。期間中は様々な分野で活躍をしてくれた。先の大越君は大学のカメラ部として専門的に扱っていることもあり、期間中のほぼすべての写真を記録として残してくれた。また北谷圭太郎君（慶應義塾大学 2 年）はビデオ撮影、水川智沙さん（明治大学１年）、高橋更紗さん（国学院大学１年）、川村泰裕君（早稲田大学４年）は実際に班に入り、担任のサポート役として記録や参加者とのコミュニケーションを積極的にとるなど活躍してくれた。参加者からも「大学生スタッフが親身になって接してくれた」とのコメントがあり、よきお兄さん、お姉さんのような立場で色々な相談に乗ってくれたのは非常にありがたかった。ただ、実行委員会から彼らに前もって明確な役割や仕事の割り振りなどを明確に伝えきることができず、時折迷わせてしまうこともあったので、次回からは事前ミーティングで大学生スタッフにしっかりとその点を伝えられるようにしたい。

12.5. 開催規模

当初は 30 名の募集を募り、それに応じた「仕事体験」やワークショップを準備していたのだが、実行委員会の力不足により、実際には 17 名の参加となってしまった。しかし、逆に 17 名という規模が濃密な時間・関係を生み、じっくりと話し合い、それをまとめたり、書いたりする時間が取れるという結果が残った。運営面でも 30 名の受け入れは送迎の面や班でのワークショップにおいて難しい面があったかもしれない。この経験を活かし、次回は「6名×4班」や「5名×5班」といった数字を念頭におきながら、募集・プログラム作りを進めたい。

12.6. 記録

今回の記録に関しては、「カメラによる撮影」「ビデオカメラによる撮影」「ワークシートの提出」「社会人・大学生スタッフのメモ」などに分かれた。ある班では話しあったことをすべてホワイトボードに書きとめ、それを記録していたためにこの報告書の作成時にも非常に役に立った。しかし、必要であったと感じているのが IC レコーダーによる「ディスカッションの記録」である。話しあわれたことの記録の部分が抜けてしまい、参加者の多くの貴重な気付き、学びのコメントを残せなかったのは次への反省材料となった。またビデオカメラの撮影なども実行委員会から大学生スタッフにきちんと指示を出すことができず、彼らを困惑させてしまった。次回からは「どのように撮影してほしいか」をきちんと前もって伝える必要があると感じている。

12.7. 施設

今回は埼玉県越谷市にある「セミナーガーデン」という施設を会場に前日準備を含め 7 日間お世話になった。担当者の東海林勉さんのご好意により、食事、会議室、宿泊など進行に合わせて多くの融通を利かせていただき、大変にありがたかった。また消灯後も「地域住民の方に迷惑になる」という明確な理由により、騒ぐことなく静かに就寝することができた。結果としてプログラム進行上の問題は何一つなく、第 1 回目の「仕事の学校」を無事に終了させることができたのは、セミナーガーデンという場所で実施したことが大きく影響していると考えている。

12.8. 全体スケジュール

今回は全 5 泊 6 日というスケジュールで行ったが、可能性としては 6 泊 7 日（月曜日スタートで日曜終わり）に伸ばすことも考えられる。そうすればフリーな日を 1 日つくり、様々なワークショップやアクティビティができたかもしれない。ただスタッフ・参加者にとっては 1 週間すべてを「仕事の学校」に費やすのはなかなか難しく、5 泊 6 日という長さは適度なのかもしれない。またプログラムにおける休憩やフリーな時間などが随所にあったので、スタッフ・参加者ともに時間に追われることはそれほどなかった。次回はどれほどの日数で開催するかは未定であるが、一日一日のスケジュールは今回のものをベースに考えていきたい。

12.9. 次回の開催

第 1 回目となった「仕事の学校」は実行委員会において「今後も続けていく」方向で意見は一致している。そのためにも、この報告書を中心に様々な方に「仕事の学校」の取り組み、存在を知ってもらい開催回数を重ねていくことが重要である。また今回 4 名であった社会人スタッフの数も少しずつ増やしていき、この輪を広げていきたい。東京だけではなく地方限定での開催や定期的なミニセミナーなどといった別な形でも発展させられる可能性も十分にある。今回の対象は高校生であったが、中学生、大学生、社会人も考えられるであろうし、そういったプログラムも作成していきたい。今回は 1 回目ということで、参加者は「1 期生」ということになるかもしれないが、最終的にはいろいろな人がこの「仕事の学校」に参加し、その枠組みを超えた「仕事の学校」にかかわったという大きなつながりを作りたいと考えている。

13. おわりに～スタッフから

木元伸一（1 班担任）

強烈な印象

仕事の学校、最終日。私は、参加してくれた多くの子ども達が、私たちの当初予想を大きく超えた成長を遂げたことに驚いていた。ここまですごい言葉を発するのか。ここまで理解してくれて文章に書き残すことができるのか。私は、自分の仕事を通じて、多くの教育機会に接するが、正直大人たちはここまで劇的に変化することはない。若さの特権か。“伸びしろ”の大きさゆえか。私にとって、新しい強烈な印象であった。感動！と言ったらかえって軽く聞こえるが、とにかく「仕事の学校という仕事」はとても素晴らしい仕事だ。

改めて、仕事の意味の重さ

仕事を考えることは、人生を考えることである。もっと大袈裟に言えば、命の使い方を考えることである。自分も含めて、世の中の大人も、もっとこのことを考えることが必要だと思う。日野原重明さん、95 歳。自分の命のエネルギーが続く限り、いやなるだけ、それを大切にしながら、日野原さんは今なお、世の中のお役に立とうと日夜、前を向いて歩いている。のんびりした老後なんて、この方には必要ないのか。すごい命の使い方だ。日野原さんのことを考えたら、「もうすぐ 50 だし。」なんて言っていられない。大人も、今からでも自分の「仕事」を考える必要がある。60 歳で定年を迎えたとしたら、定年後の「仕事」・・・ここで言う仕事とはもちろん、「世の中へのお役立ち」を言っている・・・を考えなければならないだろう。75 歳になったら、日野原さんも提言しているように、10 年後（85 歳だ！）の発表会を楽しみに、また何か「仕事」を始めるのだ。いのちの火が消えるまで、世の中のために、だ。こんな拡がりをもっている「仕事の学校」だ。

仕事の学校のメソッド

仕事の学校では、インプットとアウプットのバランスがとてもよい。講義中心のセミナー型ではなく、体験を多く採り入れ、また考えること、書くことを通じて多くのアウプット参加者に求めた。「今まで、こんなに書いたことはなかった」と参加者自身が言うように、学校では説明を受けることとノートすることが中心で、「自分の頭で考えること、まとめること、伝えること」は圧倒的に少ないのだろう。そのアウトプットも 2 種類あって、話すことと書くこと。話すことはまず自分の考えを頭の中で整理する際に有効だ。話ながら、また人の話を聴きながら、新しい枝が拡がる。そして書くこと。さらに自身の中でちゃんと整理できる。書くことは、実に面倒だが、とても大事なことが分かった。口では、ごまかしながら言えたことが、いざ書くとそれが不十分で不足していることに気がつくからだ。

家庭との連携

参加者が自宅に帰るに際して。担任である私たちから、保護者の方に電話をした。「今、駅から電車に乗りましたので、無事に帰ると思います。少し疲れているかも知れませんが、暖かく迎えてあげてください。そして、きっと帰ると荷物を置くのもそこそこに、たくさん話をすると思いますから、ぜひぜひ、たくさん聴いてあげてください。本人が話し終わるまで。これだけは、ぜひよろしくお願いします。」そして、その保護者の方々からのアンケートを読むと、帰宅後の参加者の興奮ぶりが分か

る。そして、子どもたちの成長を心から喜んでいる姿も。期間中も毎日更新されるブログを楽しみに見ていたようだ。仕事の学校には、保護者との連携が不可欠であることを強く感じる。どういう意図で、何を体験し、何を感じとったのか。これを保護者が同じレベルで感じられることが理想。われわれはわずか 6 日間。保護者は、これからも毎日だから。保護者にはこれからも、よろしくお願いしたい。ときどき思い出すように、話題に出してほしい。あ、保護者向けの通信も必要か？

今後のこと

大きな感動は、時間が経つと時として、「美しい思い出」になってしまう可能性がある。仕事の学校は、単なるキレイな花火で終わるのか、それとも繰り返し読む名作なれるのか。これはこれからの私たちの課題であるし、参加してくれた子どもたちひとりひとりに課せられた課題でもある。今後、じっくり見極め、取り組んでいきたい。そして、第 2 回が今から楽しみだ。だって、「仕事の学校」は、今の日本にとても必要な気がするから。すごい仕事になる予感がするから。

仕事の学校（第 1 回）に関与したみなさん、ご苦労さまでした！そして、ありがとう！！

井上　晶（2 班担任）

「仕事の学校」を通じていろいろなことを思い出し、考えました。

入社 1 年目（社会人初日）、直属の M 課長に「寝る時間を除けば、1 日で一番長く生活する場所は会社だろうから、楽しくやろう！」と言われました。素直に「楽しまないといけないんだ～」と思い、少し勘違いした部分もありましたが、毎日笑い、笑い、笑い。とても楽しかったことを覚えています。

入社 3 年目、毎日 17 時になると直属の T 課長に「片付けろ。会社から出るぞ」と。支店隣のサウナで 20 時まで仮眠をとってから、白金のホテルの喫茶店で深夜まで一緒。書き仕事をしながら、仕事に対するスタンス、顧客との取引方針、交渉術、人の見方などなど、いろいろなことを教わりました。

入社 4 年目、初めての転勤。これまでの仕事に未練タラタラ。まったく畑違いの目の前の仕事に対しては「嫌だな～」と思いながら･･･。今思えば、自分の中では、ある意味停滞期でした。

入社 8 年目、新しい O 部長の就任が転機に。人生最大の転機と言っても言い過ぎではありません。それから今に至るまで、本当にいろいろなことを教わりました。「当事者意識、問題意識、プレゼンテーション能力」「リスクテイクとディシジョンメイク」「率先垂範」「有言実行」･･･ただ、言葉だけではありません。グローバル水準の運用会社のビジネスモデルを築き上げ、実践するなど、これをやる！と決めたら（言ったら）、何でも本当に実行してしまうすごい人です。そうした行動や仕事を目の当たりにして、心底「この人のために仕事をしたい」「この人と仕事をしたい」、そんな気持ちになりました。漫画・島耕作に出てくる「派閥」のようなツマラナイものではなく、島耕作を取り巻く「同志」でありたいというのと同じです。

入社 14 年目、本城慎之介さんや木元伸一さんとの出会いがあり、会社での仕事とは違う形で、社会に対して影響力を行使しようという、新たな「仕事」にも取り組み始めました。ここでは、お金

（収入）という報酬ではなく、経験という報酬を受け取ることができます。決して、お金には換えられない貴重な財産です。

もちろんこれにとどまらず、今回の「仕事の学校」のスタッフや参加者も含め、紙面には書ききれないくらいたくさんの人と出会ってきました。そして人生の節目には、いつもとてもすばらしい人がいました。これまでの会社人生、いやそれ以前から、常に「一期一会」を大事にすることや人とのつながりを感じてきました。

入社 13 年目、国内銀行初の CSR（企業の社会的責任）専任部署の立ち上げに関与しました。無から有を作り出すときのエネルギー消費量は相当なものです。ですから、「未知の領域へ踏み出せば世の中を変えられる」「自分が勤めている会社なのだから、多くの人に立派な会社だと言われたい」「新しい仕事を創りたい」「この仕事をやるのは僕だ」といった気持ちが、当時の仕事を支えてくれたのだと思います。

大人が何年も働きながら、経験を通じて身に付けたこと、知ったことを、今回の 17 人の参加者はたった 5 泊 6 日で見て、聞いて、感じることができました。自分の頭で「仕事とは何か」など存分に考えることもしました。今後の長い人生では、それらを実体験から確認し、本当の意味で身に付け、更に昇華させてほしいと思います。そして、考えたことや思ったことを「実践する」「実行する」といった、最大の難関を突破してほしいと願っています。

今回の「仕事の学校」では、幸運なことに、新しい発見と共に、これまでとは違った角度から自分の成長を顧みることができました。もっと成長したいとも思いました。そして、皆さんとはいつか一緒に仕事をすることもあると思います。近くにいなくても、少なくとも社会の中でつながっているわけですから、これからも共に成長しましょう。お互い「good job」を提供し続け合うために。
今回は本当に感動しました。ありがとう、みんな。

平田明子（3 班担任）

先日の新聞で『夏休み最後に殺到！宿題代行』という記事を読んだ。読書感想文 2 万円、工作 5 万円という、子どもでは払えない金額。「子どもの宿題が期限に間に合わないから」と切羽詰まった理由で親御さんがお願いしているようだ。わざわざお金を払って、我が子の学力や考える力、ひいては生きる力を親が奪ってしまっているなんてなんとも悲しい。

そんな中、お金と不安を代償に、かわいい我が子を 6 日間も私たちに預けて下さった親御さんにまず感謝申し上げたい。
そして、遊びたい気持ち、それこそ宿題だってあっただろうに 6 日間「仕事の学校」飛び込んできてくれたみんなに本当に感謝したい。

この夏、私は恐らく自分が高校生だった時以来に「高校生」そして、高校を卒業して間もない「大学生」たちと向き合った。
彼らがもっているもの、考えていること、感じる力ってすごい！
そして、それを文字にしたり、口にしたりして表現する力を持っている。

みんなは「こんなこと初めて口にしたよ。」「こんなに書いたり、話したりしたことは初めてだ。」と言っていたけど、私はこんな風に高校生や大学生の声に耳を傾けたり、一緒に考えたことがなかったことに気がついた。
人にとって、存在を無視されること以上に傷つく行為はない。
私が何気なく、誰かの声に耳を傾けてこなかったことで、少しずつ誰かを傷つけていたかも知れないと気がついた。

仕事の学校で「認められたい」「自信を持ちたい」という数々の声を聞いた。
仕事の学校で認め合える仲間ができたね。そして、未来に向かって突き進む勇気や希望を得たと思う。
でも、本当にその欲求が満たされるためには具体的に動くしかない。悩みは尽きないけれど、悩みながらでも動いていこう。進んでいこう。

そしてその道は自分自身のものでしかない。だから、隣の誰かと比べることなく自分がどれだけ成長できたかを振り返って前に進んでいこう。

さて、私の仕事はこの感動を伝えていくこと。つなげていくこと。
来年もまた会いましょう。

長尾彰（4 班担任）

僕が高校生の頃といえば、漠然とした未来への不安を打ち消すために、ひたすら部活動（バスケットボール）に打ち込んでいた。学校の授業や普段の生活で、何を学んで何に気づいていたかなんてほとんど覚えていない。
　ただ覚えていることは、「体育の先生になろう、そしてバスケットボール部の顧問になろう」と強く思ったこと。

顧問の野田先生は 40 代後半の体育教師。
みてくれは怖いけれど、授業は面白い。部活の指導はとても厳しいけれど、叱られることに納得のいく理由があるので理不尽さを感じない。
僕は、バスケットボールは下手だったけれど、とにかく認められたくて熱心に練習していた。野田先生はそんな僕を認めてくれていた。
僕が認めてもらえた、と強く感じたこんな出来事があった。

朝の 6 時から個人練習を始めた僕は、たったひとりきりで体育館の周りを走っていた。そのうち、野田先生が体育館の鍵を開けに来る。
僕たちはお互いの姿を見つけて僕は走りながら会釈する。
野田先生は大袈裟に驚いた顔をして、すれ違う僕に両手を差し出す。すれ違いざまのハイタッ

チ。

　ほんの些細な出来事だけれど、僕はとても自分が認められた気持ちになった。そこには会話や言葉のやりとりはなかったけれど、僕はその時から体育の教員になろうと思った。

　仕事の学校の 6 日間を終えて、あらためて気づいたことがある。
　「僕は体育の教員になりたかったんじゃない。野田先生になりたかったんだ。」

　野田先生になるためには、「体育の教員」という進路を「選ぶ」ことしか思いつかなかったし、そもそも 16 年前にはその「選び方」も教わらなかった。
　理想の姿を形にするには、「選ぶ」のではだめなのだ。「創る」ということをしなければならない、ということにまったく気づいていなかった
　大人が子どもたちに対してすべきことはひとつなんだろうなあ、と思ったこと。
　「私のように生きなさい。」と胸を張って子どもに言える人生を創っているかどうか。
　そんなかっこいい大人が増えたら、世の中は変わる。
　野田先生のように、真似したくなる教員が増えたら学校は変わる。
　そんなかっこいい父親が増えたら、家庭も変わる。

さて、僕も「真似されたいかっこいいオトナ」になろうと思う。
これを読んでいるあなたも、「真似されたいアナタ」になりませんか？
そのためには、「選ぶ」のではなくて、「創る」。

またどこかで会いましょう！

宇佐見純平（事務局長）

　埼玉県越谷市、ひっそりと住宅街にたたずむ研修施設「セミナーガーデン」に一本の電話を入れたのはもう半年以上も前になる。思えば長い旅だった。

　「仕事の学校」と 1 年近く付き合って、今は祭りのあとの如く、心が静寂であることに驚いている。もう「あの」といってもいい時間が経ってしまった 5 泊 6 日が、夢のごとく過去のこととして風化する前に、こうして筆をとって記憶を記録に残せることが少し嬉しくもある。

　振り返ると「仕事の学校」とはすべて宝石のように輝く「出会い」によって成り立っていたように思う。参加者のエントリーシートを受け取るという目に見えない出会いに始まり、保護者の方との電話での出会い、仕事体験先の企業の方々との訪問による出会い、たくさんの助言をいただいた講師の方との出会い、WEB、イラストを手がけていただいた方との出会い、共感していただいた方との出会い、社会人、学生スタッフとの出会い、期間中に足を運んでいただいた見学者の方々との

出会いなど、どれもがうれしく、ありがたいものばかりであった。特に忘れられないのは、冒頭の「セミナーガーデン」の管理人である東海林勉さんとの出会いかもしれない。スポーツを通じて国内、国外問わず数多くの合宿などを経験してきたが、東海林さんほど親身になって自分たちを迎え入れていただき、お世話をしていただいた人はそういなかったように思う。この出会い、運命に感謝するとともに、東海林さんの「仕事」「準備」「ホスピタリティ」の心構えを少しでも学びたいと、今も強く思っている。

こうして書ききれないほど沢山の人に出会い、支えられ、「仕事の学校」は社会へと飛び立つことができた。この場を通じて御礼を述べたい。

自分にとっての「仕事の学校」を考えてみると、「準備」の一言であったように思っている。「期間中どんなことが起きて、どう対応するのか、そのために何が必要かー」そういったことを毎日考える「癖づけ」ができたのは、ひとえに事務局という仕事に他ならない。その「準備」という仕事をしていくにあたって、自分を支え続けてくれたひとつの言葉がある。あるラグビーチームを務めた監督に関する本の中に次のようなフレーズがある。

> 「試合前日、その試合のことを他者から聞かれて『まあ、なんとかなるでしょ』
> と答える人がいる。が、本当にそれを口にしていいのは、これ以上できない
> というほどに準備に準備を重ねた人だけだ」

思わず手が止まり、目を奪われた。このなんともありがたく、重みのあるメッセージをゆっくり受け止めたのを覚えている。

奇しくも「仕事の学校」の講師としてご足労いただいた西村佳哲さんの講演でも「『こんなもんでいいでしょ』という仕事が人間を、そして社会を深いところで傷つけるのではないでしょうか」というお言葉を賜った。先の言葉とシンクロするようで、思わずノートに書きとめた。そして同じように、自分の心の中にゆっくりと刻み込んだ。

「いい仕事」をしたいと思う。精一杯準備を重ねる。ときには無駄と思えることも、自己満足に陥りそうなこともあるかもしれない。でも「こんなもんでいいでしょ」にはなりたくないから、やはり「いい仕事」をしたい。今も、そしてこれからも。

果たして今回の「仕事の学校」で自分が「いい仕事」をできたかどうかはわからない。準備でも至らない箇所が多々あった。まだまだ未熟者であると同時に、仕事に対する姿勢に、隠れた「こんなもんでいいでしょ」があるかもしれない。仏門で行をする修行僧の如く、これから一つ一つその甘えをそぎ落としていければと思っている。

次の旅の出航まで、幸い時間はあるようだ。次もまた長い旅になるのだろうか。次は果たしてどんな航海が待っているのだろうか。今からとても楽しみである。ただ、しばらくは港町で疲れを癒す

船乗りのように、「仕事の学校」1 期生の参加者が刻んでいった無数の成長の足跡を、ゆっくりかみ締めてみようと思う。この時間が、なんともいえず心地いい。そう、疲れきった体にビールをじっくり流し込むように･･･

仕事の学校、乾杯。

14. 謝辞

まずは、参加してくれた 17 名の皆さん、ありがとうございました。皆さんがいなければ、この仕事の学校は成り立ちませんでした。そして 5 泊 6 日での、皆さんの成長が、私たちの大きな喜びとなりました。そして、実績もない活動にお子様を参加させてくださったご家族の方々、本当にありがとうございます。

仕事体験を受け入れてくださった株式会社サイバーエージェント、株式会社三育社、株式会社日本公文教育研究会、株式会社濱盛商事、株式会社丸和運輸機関、楽天株式会社の皆様、本当にありがとうございます。2 日間、高校生を受け入れるということは、本当に負担が大きいのにも関わらず快く受け入れて頂き、参加者に多くの学びと成長の場を与えてくださったことに感謝申し上げます。

仕事の学校の趣旨にご賛同下さり講師をしてくださった長原實様、宮城香織様、西村佳哲様、大葉ナナコ様。仕事インタビューを引き受けて頂いた森井泰博様、白原真菜美様、宇佐見千絵様。皆様の仕事観が、参加者に大きな気づきとなりました。ありがとうございます。

社会人スタッフとして社員の方の参加を認めて頂いた株式会社くもん人財開発センター、株式会社資生堂、している株式会社、住友信託銀行株式会社の皆様、ありがとうございます。今後もぜひ様々な形でのご協力をお願いします。

イナアキコ様、上田剛也様、素敵なイラストとWebをありがとうございます。ポラス株式会社セミナーガーデンご担当の東海林様、日々変わる私たちの要望に笑顔で応えて頂き、ありがとうございます。東海林様の仕事ぶり、参加者にも大きな刺激になりました。

参加者募集にご協力頂いた福原孝明様、清水昌明様、原田賢幸様、大場孝浩様。なんとか無事に開催できました。次回もぜひよろしくお願いします。

最後になりましたが、井上加代子様。突然の訪問にも関わらず温かく迎えて頂き、様々な方をご紹介くださり本当にありがとうございます。井上様の仕事に対する姿勢から、私たちも多くの学びを得ました。

この他にも本当に多くの人のご支援・ご指導で仕事の学校を開催することもできました。一人ひとりのお名前を挙げることはできませんが、本当にありがとうございます。

仕事の学校実行委員会

連絡先
〒107-0061 東京都港区北青山 3-6-7 青山パラシオタワー11 階 ㈱ 音別
(TEL) 03-5778-5961
(FAX) 03-5430-0474
(e-mail) info@shigotonogakkou.net
(Web) http://www.shigotonogakkou.net/